

教育実践の参考資料



園名【】

名前【】

岐阜県教育委員会 教育研修課

Ⅱ 教育実践の手引

1 教師としての心構え

1 幼児教育の意義

人間は、乳児期、幼児期、青年期を経て成人に達します。幼児期は、身体的な発達の基礎ができあがり、情緒的な発達も著しい時期です。また、行動範囲の拡大に伴って社会性も急速に発達し、日常の基本的な生活習慣が形成され、自立心が育ちはじめます。

つまり、この時期は人間の第一次の充実期で、幼児の成長のおよその方向が定まる時期です。したがって、この時期に幼児の成長発達に応じた教育を行うことは、人間形成の基礎を培うこととなります。ここに幼稚園教育の重要な意義があることを心にとめておく必要があるのです。

2 幼稚園教育の基本と目標

教育要領は総則の中で、「幼稚園教育は、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする」とし、特に重視して行わなければならないこととして次の3つを示しています。

- (1) 幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること
- (2) 遊びを通しての指導を中心として、ねらいが総合的に達成されるようにすること
- (3) 幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにすること

そして、上記の基本に基づいて学校教育法第23条の5つの目標と関連させながら、幼稚園教育の目標を5つ示しています。

ここで、わたしたちは幼稚園教育の基本と目標に立って、幼稚園としての独自性を深く理解する必要があります。教師が幼児との信頼関係を築く中で、遊びを中心とした幼児期にふさわしい生活が展開されるにはどうしたらよいか。また、どうすることが幼児一人一人の特性に応じ、その生活経験に即した活動をさせていくことになるかを深く考え、よりよい教育環境の創造を目指して日々の教育実践に当たることが極めて大切です。

3 幼稚園教育のねらい及び内容

教育要領は第2章「ねらい及び内容」において、幼稚園教育が何を意図して行われるかを明確にしています。幼児が生活を通して発達していく姿をふまえ、幼稚園教育全体を通して幼児に育つことが期待されている心情、意欲、態度等を「ねらい」とし、それを達成するために教師が指導し、幼児が身に付けていくことが望まれるものを「内容」としています。そして、それら2つを幼児の発達の側面からまとめて5つの領域に編成しています。

各領域の「ねらい」は園の生活全体を通して、幼児が様々な体験を積み重ねる中で相互に関連しながらしだいに達成に向かうものであり、「内容」は幼児が環境にかかわって展開する活動を通して総合的に指導されなければならないものです。各領域に示されている事項は、教師が総合的に指導を行う際や環境を構成する場合の視点といえます。

実際には、日々の具体的、総合的な活動を体験させる中で、長期的な視野に立って「ねらい」が相互に関連しながら達成されるよう指導計画を立案し、実践するよう努めなければなりません。

4 幼稚園教育の全体像



5 望ましい教師

◎ かけがえのない一人一人を見つめ、道徳性の芽生えを培い、温かく導く教師になりましょう。

- ・ものごとの善悪の判断をさせるとき、単なる知識として性急に理解させるのではなく、幼児自身が体験を通して感じたり、気付いたりするように助言します。
- ・自然の美しさや身近な動植物に親しんだり、生命の大切さに気付いたり、いたわる気持ちをもつように働きかけ、豊かな心情を育てます。
- ・他の幼児とのかかわりの中で、楽しさや喜び、葛藤、挫折等を味わいながら自分や相手の気持ちに気付くようにします。
- ・日常親しく接している大人、特に教師の価値観や言動の影響を受けやすいため、教師自らの姿で良い規範を示したり、幼児の思いを大切にするようにします。

◎ 一人一人を大切にしたい確かな人権感覚をもった教師になりましょう。

人権感覚とは、子ども達の遊びや教師のかかわりの中で見られる何気ない言動の中に「一人一人を大切にする」という視点から「ちょっとおかしくはないかな。」「こんなことでいいのかな。」といった疑問等を持ち、その問題解決のために自分にできることは何かを考え、すぐにも行動化しようとする鋭敏な感性のことです。幼児期においては、教師が何を目指し、実際にどんなことを言ったり、行ったりしているかが子ども達に大きな影響を及ぼします。そのためには、教師自身が人権に関する重要課題等に対する関心を高め、正しい認識と理解を深めるとともに、具体的な事例から学び、常に自己点検をすることが大切です。

◎ 一人一人の違いを、幼児のもっている特性(よさ)として認め、大切にしていける教師になりましょう。

(1) 幼児の心の中にとび込みましょう。

幼稚園の教師は、幼い子が好きなことが第一です。幼児と同じ目の高さで目を合わせ、手を握って対話し、何かを訴えようとしている幼児の心を汲みとって、聞くことが大切です。

(2) 幼児の心が読みとれる教師になりましょう。

幼児は、自分の心を素直に表わせないで、泣く、黙る、乱暴するなど、いろいろな行動で表現することがあります。温かく包み、心を開いていくような働きかけをする必要があります。

(3) 幼児の生活の全てである遊びを大切にしましょう。

幼児は、自ら選んだ遊びの活動の中で、友達とのかかわりを広め、環境に働きかけるための創意工夫をこらした活動を生み出していきます。教師も、幼児の遊びの中に入り、体を通して遊びを広げていく力を育てましょう。

(4) 幼児一人一人に公平な態度で接するようにしましょう。

幼児一人一人には、かけがえのない大切な一人として「今日一日、元気に楽しく過ごしてくれるように。」との親の願いが託されています。その子なりのよさを認め、集団生活への意欲を育てていくことが大切です。一日の反省で、学級の幼児一人一人の姿が思い出せる教師になりましょう。

(5) 節度ある生活をしましょう。

幼児期は、信頼でき憧れがもてる周囲の大人の言動を、模倣したり自分の行動にそのまま取り入れたりすることが多い時期です。それゆえ、教師自ら、節度ある生活態度を心がけていきましょう。

(6) 健康で明るい生活をしましょう。

教師が疲れていたり、体の調子が悪かったりすることを、幼い子どもたちは敏感に感じ取ります。健康で明るい幼児を育てるためには、まず教師自ら健康で明るくならなければなりません。いつもにこやかでユーモアに富み、温かいまなざしで幼児に接する教師、身だしなみがよく、上司や同僚と明るい言葉を交わすことができる教師、忙しさの中にもきびきびとして能率的に仕事を処理できる教師、元気で明るい教師を目指していきましょう。

(7) 人間関係を大切にしましょう。

それぞれの教師が、個性豊かな学級の経営や指導に努めることは大切ですが、隣の学級の教師、同年次の教師、園全体の教師と協力して進めることがより効果的です。

また、保護者との人間関係も大切にしたいものです。家庭と幼稚園、特に保護者と教師とが、幼児の教育に関して方向が一致しなければなりません。幼稚園での幼児の行動を教育理論からだけで判断してしまわないで、お互いの立場を認め合い、幼児の幸せのためにという見地から、上司や第三者のアドバイスを受けて対応するようにします。謙虚で協調的な教師こそ信頼を得て、教師としての力量を高めていくものです。

(8) 実践研究の記録を大切にしましょう。

幼児を総合的に理解したり、指導の反省や指導計画の改善をしたりするために、記録をとることは大切なことです。また、記録は、自分を高め、自信をもって保育に当たることにつながります。以下は記録をとる場合のポイントです。

- ・ 幼児の行動や言葉などと奥にある心を考慮して記録する。
- ・ 観察の対象、場、目的を意図的、計画的に記録する。
- ・ 一人だけでなく仲間と共に分担し合って記録する。
- ・ 変容を捉えるために継続的に記録する。
- ・ 園内の研究や個人研修に役立てる。

2 望ましい学級経営

1 学級経営案の作成

学級経営は、幼稚園経営の一環として、園の教育目標具現のために行うものです。また、学級経営は、幼児にとって新たな生活集団として設けられた学級という場で、幼児と教師が心を通い合わせながら、その学級に秩序をつくり上げていく息の長い取組です。

学級担任は、幼児との出会いを大切に、幼児の心身の成長や発達を助けるために確かな目標と見通しをもち、指導方法を創意工夫し計画的に実践し、園の教育目標の具現を目指さなければなりません。その計画案にあたるのが、「学級経営案」です。

(1) 学級経営案の例(1年保育5才児〇〇組)

〈学級の実態〉				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所の生活を経験している子が大半を占めているので、集団生活に慣れている幼児が多い。 ・ 衣服の着脱や挨拶は、ほとんどの幼児ができるようになってきており、自分でできることが増えつつある。 ・ 活動や遊びの後の片付けについては、まだ、教師の援助が必要である。 ・ 一人一人を見ると、その子らしい発想をして遊んでいるが、仲間とのつながりが弱い。 ・ 共働きの家庭が多く、祖父母に任せる傾向にあり、母親がゆとりをもって幼児に接することが少ない。 				
〈園の教育目標〉		〈学級目標〉		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 元気で夢中になって遊べる子 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のことは自分で行き、力いっぱい遊べる子 ・ 自然に接し、友達と仲よく遊べる子 ・ 進んでやろうとし、最後までがんばる子 		
〈学級経営の重点〉				
1 期	2 期	3 期	4 期	5 期
幼稚園生活に慣れ、教師と触れ合いながら楽しく遊ぶことができる。	片付けや自分の身のまわりの始末がしっかりでき、自分の思ったことが表現することができる。	自然のよさに親しみ、友達と一緒に遊べるようになる。	自分たちで遊び方やルールを考え、友達との遊びを工夫しながら遊ぶことができる。	友達同士でめあてをもって最後までがんばることができる。
[具体的な手だて]				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員の幼児とのスキンシップに心がけ、愛情をもって接し、幼児と教師の信頼関係を築く。 ・ 幼児の興味・関心、意欲や得意とすること等を掌握し、個のよさを生かした幼児理解をする。 ・ 教師も一緒になって遊びに加わり、幼児の遊びが広がるための適切な援助をする。 				
指 導 と 評 価				
新しい教室での生活にも慣れ、新しい仲間と遊び込む姿も出てきた。その遊びが広がっていくよう環境構成や仲間とかかわり合えるような言葉かけ等を工夫していきたい。	遊んだ後の片付けを、全員でできるようにしたい。片付けの必要性ややり方などについて継続的に指導していく必要がある。片付けについては、他の学級、年次の先生方と打合せをしたい。	葉や木の実などの種類や数を豊富にした環境設定を工夫することで、形や色の違いを見付けながら、組合せを工夫して遊ぶ姿が見られた。こういった姿を認め、広めていきたい。	ドッジボール遊びでは、自分たちでルールを考え、トラブルを解決することができるよう指導・援助を工夫した。そういった仲間とのかかわりの中で、自分の思いを相手に伝えることができる子が増えてきた。	小学校入学に向けて、めあてをもって生活させる中で、互いに声をかけながら、めあてに向けてあきらめず取り組む姿が見られた。小学校生活に対する不安を解消し、期待感が膨らむ働きかけを行いたい。
〈家庭との連絡〉				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 登降園時の保護者との触れ合いの場を積極的に生かし、相互理解を図る。 ・ 連絡帳等により、幼児の幼稚園や家庭における生活について交流をする。 ・ 園日よりや保育参加等により、園の願いや保育方針、保育内容等の理解を図る。 				

(2) 学級経営案作成上の留意点

① 学級の実態の把握

学級経営案を作成するに当たって、まずしなければならないことは、自分の学級の実態を把握することです。学級経営案の基本となる学級の実態を的確に把握するためには、次の点に留意することが大切です。

- ・赴任した日から、その幼稚園の経営方針などの説明があるので、そうした経営方針や幼稚園の教師としての自分の願い等を基に、幼児の発達段階等を考慮しながら、幼児をみる視点を明確にしておく。
- ・2年保育や3年保育の場合は、前年度までの記録をよく読んでおく。また、1年保育の場合も、園児調査票をはじめ諸調査、家庭での状況、諸能力などを幅広く理解する。
- ・幼児理解のポイントは、幼児と一緒に活動しながら、幼児を多面的、継続的にとらえ、なぜそういった姿を示すのかという内面の理解に努めることである。学級経営案作成のための学級の実態把握は、年度の初めに行うが、それを固定的なものとしなないことである。あくまで、学級経営案は、案であり、仮説である。したがって、実態の変化を捉え、学級経営案を加除修正していくことも大切である。
- ・幼児の実態をよりの確にとらえるためには、多くの教師の見方を参考にすることが必要であり、教師同士で情報や意見を交換することが大切である。

② 学級目標及び学級経営の重点の設定

学級の実態を把握したら、園の教育目標をふまえ、学級目標及び学級目標を達成するための学級経営の重点を設定します。

- ・学級目標は、園の教育目標を受けて、具体的にめざす幼児の姿になっているとよい。また、学級目標は、幼児、保護者、教師が一緒になって達成していくものであるから、お互いに共通理解し、意識しやすくすることが大切である。
- ・学級経営の重点は、幼児の発達を段階的にとらえ、具体的に評価しやすいものがよい。

③ 具体的な手だて及び家庭との連携方法の明確化

学級目標及び学級経営の重点を設定して、学級としてめざすものが明らかになったら、そのための具体的な手だてを明確にする必要があります。

さらに、幼児の教育は、特に家庭との連携が重要であり、その方法についても明確にしておく必要があります。

具体的な手だて及び家庭との連携方法の明確化に当たっては、次の点に留意することが大切です。

- ・具体的な手だては、できた、できなかったがはっきり見届けられるものがよい。
- ・具体的な手だての内容としては、年間を見通したもので繰り返し行うものと、幼児の発達段階に応じて内容を変えていくものがあるので、意識的に区別する必要がある。
- ・家庭との連携方法としては、幼稚園での生活を保護者に伝えることと、保護者の考えを十分聞くことが大切である。幼児の生活の表れを具体的に伝えることを心がけ、保護者の考え方や意見を受け止めていくことを大切にしたい。

④ 指導と評価の記録

保育における評価には、幼児の姿の評価と教師自身の評価の二つがあります。これらの評価は、毎日の保育の中で繰り返し行われていくものですが、一年の見通しの中で今、幼児一人一人は、学級は、教師の指導はどのような状態であるのか、そして、次にどのような保育をしていくのかということを、節目、節目で見直していく必要があります。さらに、それを記録として残しておくことが大切です。そのことが、個々の幼児の成長や発達の道筋を明確にし、その成長や発達を援助し、どう保育していくのかの指針につながります。

2 学級担任としての日々の実践

(1) 教師の一日の例

時刻	内 容	教 師 の 活 動	留 意 点
8:30	出勤	<ul style="list-style-type: none"> ・「おはようございます」とさわやかに挨拶する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な声で誰に対しても挨拶する。
8:35	窓あけ・清掃 出迎え 幼児の身支度	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の計画を確認して、保育室に入る。窓を開け放ち、清掃する。 ・一人一人に声をかけながら心や身体の健康の状態を読み取る。 ・幼児が自分の身仕度ができるよう見守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外に出られない幼児，着替えずにいる幼児に対して個別に援助する。
9:00	遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の興味・関心のあるものを把握し，遊びを発展させ，内容を深めていくための援助をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の意欲を大切にして遊びを援助する。 ・遊べない幼児に対して個別に援助する。
11:00	片付け	<ul style="list-style-type: none"> ・遊んだ後の片付けを自分たちでできるよう援助しながら見守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・頑張って片付けている幼児を誉める。
11:30	給食の準備 食事	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで分担して給食の準備ができるよう援助する。 ・和やかな雰囲気です食事ができるようにし，マナーや偏食等，一人一人の実態に応じて指導・援助する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの力でやり遂げた満足感を味わわせるようにする。 ・一人一人のつぶやきに耳を傾けながら，取組に応じて援助する。
12:30	片付け 帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> ・ロッカーの整頓をし，帰り支度をさせる。 ・今日の宝物や友だちのよさについて交流し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物がないように注意する。
13:30	降園	<ul style="list-style-type: none"> ・「さようなら」の挨拶を一人一人にする。 ・交通の約束を現場で継続，指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明日も元気に登園したいとする意欲をもたせる。
14:00	保育室の整理 記録	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室を見まわり整理する。記憶の鮮明なうちに今日の記録をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導・援助は適切であったか，計画的にどの幼児についても記録する。
15:00	諸会議・打合せ	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の保育の様子を交流し合い，必要な打合せを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問点は積極的に聞く。
16:00	明日の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・明日の保育の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の保育を生かす。
16:30	点検・片付け	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室，分担箇所の点検と戸締まりをし，日直に報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培飼育の動植物の餌や水などの確認をする。
16:45	帰宅	<ul style="list-style-type: none"> ・「失礼します」の挨拶をして園を出る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で心身の健康を保つように留意する。

(2) 学級事務の処理

効果的な幼児の指導・援助のためには、次の表にあるような各種の学級事務がうまく処理されることが重要です。学級事務の処理能力が学級経営に大きく影響してくるといっても過言ではありません。書類の記入の仕方、備品の管理・保存の仕方等については、職員会で打ち合せ、分からない点はよく聞き、報告・連絡・相談を忘れずに責任をもってやり遂げることが大切です。各自が自分の仕事をきちんと果たすことによって、円滑な園経営を進めていくことができるからです。

学級事務の内容(概略)

指導を進める上の事務	幼児を掌握・管理する事務	園の運営上必要な事務
<ul style="list-style-type: none">・学級経営案の作成・指導計画(週案, 日案)の作成・環境構成に関する帳簿の管理・保健・安全に関する帳簿の記入と管理・諸行事の計画と実施・個人記録簿の記入と管理・指導要録の記入・家庭連絡	<ul style="list-style-type: none">・入退園児の報告・転出先の確認・出席簿の記入と出欠席の報告・学級名簿等の作成・園児調査票, 通園路表の処理と管理・修了証書台帳の記入・事故等の処理と報告・安全点検・保育室の清掃と管理	<ul style="list-style-type: none">・庶務関係(文書事務等)・経理関係(会計関係等)・管財(防火管理・遊具管理等)・保健(給食衛生管理・学校医関係等)・渉外(保護者会関係等)・研究(園の研究課題, 自己課題についての研究)

(3) 日々の実践における留意点

新規採用の教師であってもベテランの教師であっても、幼児にとって一番大切な存在は学級担任です。学級担任としての日々の実践においては、特に、次の点に留意することが大切です。

- ・幼児の一人一人のよさをとらえ、そのよさを生かすように指導・援助し、自信をもって活動できる喜びを味わわせるようにする。そして、できた時にはみんなで認め合う場を設ける。
- ・「幼児は環境によって育てられる」と言われるが、人的環境としての教師の存在は大きいので、言動に絶えず意識して実践する。
- ・幼児のありのままの姿をとらえ、そこから一步一步前進していく姿を見守り、指導・援助していくことが大切であり、「〇歳児は、～こうあるべきだ」という固定的な見方をしないようにし、一人一人の発達段階に応じて細かく目標を立てていく。
- ・教師が環境を設定してしまうのではなく、幼児の願いを生かしながら共に環境をつくりだすようにする。
- ・特別に援助を要する幼児に対しては、学級担任だけではなく、園長、主任、他の教師にも観察してもらい、その原因を見付けて適切な指導・援助をしていく。

3 指導計画と週案・日案

1 教育課程と指導計画

幼稚園は、幼児が幼児期にふさわしい充実した生活を展開できる場として、意図的な教育を目的としています。幼稚園教育の目的、目標を有効に達成するためには、幼児の発達を見通して、発達の過程に応じた必要な教育内容を明らかにし、計画性のある指導を行わなければなりません。

したがって、幼稚園は、幼稚園教育の目的、目標に向けて、その教育期間の全体にわたって、どのような道筋をたどって教育を進めていくかを明らかにすることが求められます。そこで、各幼稚園で全体計画を示した教育課程を編成する必要があります。

(1) 教育課程の編成

3 歳児 月	Ⅰ期 期待と不安をもちながら、次第に慣れる		Ⅱ期 先生と一緒に、好きな場所や好きな物で遊ぶ			Ⅲ期 先生と一緒に体を動かして遊んだり、好きな遊びを楽しんだりする	
	4	5	6	7	8	9	10
子 供 の 姿	<ul style="list-style-type: none"> 不安と緊張感で、泣いたり、母親と離れるのを嫌がったりする子もいる。 兄や姉のいる所で、同じようにして遊ぶ。 友達が使っている物や珍しい物を欲しがり、自分の物にならないと、泣き叫んだり、取り合ったりしてあきらめない子もいるが、他の物に目を移す子もいる。 ままごと、ブロック、砂遊びなど、経験のある遊びでは黙々と遊ぶ。 いろいろな先生を頻り、名前を呼んでもらったり、受け入れてもらったりしてうれしい気持ちになる。 自分の部屋、自分の物の置き場所を、シールで確かめながら生活する。 遊んだ後、手洗いをしておやつを食べて帰るとい生活の流れが少しずつわかる。 みんなが集まるのに、とても時間がかかるし、待つことが出来ず自分の思いで行動する。 保育者と一緒でないとトイレに行けない子もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 満足になって、砂や土、水を使って遊ぶようになる。 フィンガーペイント、ペンキ屋さんごっこ、泥んこ遊びなどの、ヌルヌル、ベタベタの感触遊びは好きな子嫌いな子の差が大きい。 「…したい。」「…が欲しい。」と言う要求から、物の取り合いで衝突がよく起こるようになる。 同じ場所や、同じ遊びをしている子同士が集まって遊ぶようになる。 給食は偏食の著しい子が目立ち、座って食べられない子もいる。 給食が始まり、保育時間が長くなったため帰りの会で眠ってしまった、不機嫌になる子もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 長い休み明けで不安定になり、母親と離れることをしぶる子もいるが、遊びのきっかけをつかむと慣れるのは早い。 1学期好きだった遊びや、夏休み中に経験したことを思い出して遊ぶ。 プール遊びでは、休み中に出来るようになったことを喜んで保育者に見せる。 年中、年長児が虫を捕まえる様子を見て、タモを振り回す格好をまねて楽しむ子、虫を捕まるまであきらめず追いかける子もいる。 登る、飛び降りる、渡る、走るなど体を動かして遊ぶことが好きになる。 遊びたいように巧技台を使って遊ぶ。 友達の名前がほとんど分かり、名前を呼びあって遊ぶ。 年中、年長児の遊びに保育者が加わると、寄ってきて同じように遊ぶ。 				
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境になれ、保育者に親しみながら好きな物で遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園の生活に次第に慣れ、保育者や回りの友達と触れ合って遊ぶ。 自分の身の回りのことをしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園の生活のリズムに慣れ、好きな遊びを通して周りの友達と触れ合って遊ぶ。 見たことや聞いたことを保育者に伝えようとする。 				
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 保育者と一緒に遊んだり、身の回りの世話をしてもらったりすることを喜ぶ。 ウサギやアヒルを見たり餌をやったりして、飼育動物に親しむ。 気に入った道具や場所を見つける。 戸外に出て、砂や水、固定遊具などで遊ぶ。 保育者と一緒に歌を歌ったり、絵本を読んでもらったりして、保育者に親しみをもつ。 身の回りの始末の仕方を知る。 トイレに行って用が足せる。 	<ul style="list-style-type: none"> 水、砂、土などの感触を楽しむ。 いろいろな素材に触れながら、解放感を味わう。(小麦粉、小麦粉粘土、フィンガーペイントなど) 自分の思いを自分なりに表現する。 気に入った道具、気に入った場所で遊ぶ。 保育者に手伝ってもらいながら、身の回りのことを自分でやってみる。 給食の仕方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを行動や言葉で表現する。 体を動かす気持ち良さを味わう。 年中、年長組と一緒に遊ぶことを楽しむ。 秋の自然に触れたり、感じたりする。 園生活の流れを感じて、一日を過ごす。 				
配 慮	<ul style="list-style-type: none"> 不安定な気持ちに寄り添うために、その子に合ったかわりをし、安心して生活ができるようにする。 家庭で遊んでいたような物を用意し、安心して遊びが始められるようにする。 目に触れるところに飼育動物がいて、餌をあげたり、触れたりして、心を和ませていけるようにする。 戸外に出て、気分を開放できるようにする。 保育者が子供の名前を呼ぶことで、存在感が持てるようにする。 保育者に頼って来たときは、その都度その子にあった援助をしながら、安定感がもてるようにする。 保育者と一緒に歌を歌ったり、手遊びをしたり、絵本を読んだりして楽しめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びが十分楽しめるように、裸足にさせたり、着替えを用意したりする。 身体の汚れを、お風呂に入って落とし、友達との触れ合いや、さっぱり感が味わえるようにする。 一人一人の興味や関心を大切に、自分の思いで取り組めるよう、場所、時間、物など必要に応じて用意する。 プール遊びに抵抗感を示す子もいるので、無理をしないで、他の水遊びを楽しみながら徐々に慣らすようにする。 衝突が起こったときは、双方の気持ちを十分に受け止め、伝えていく。 着替えや給食の準備など自分で出来るようにゆとりのある時間をもち、個々に合わせて援助していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 長い休み明けなので一人一人に話しかけたり、話を聞いたして、安定して園生活ができるようにする。 体を動かして遊びやすいように、テラスに技巧台やマットを用意し、いつでも遊べるようにしておく。 それぞれの興味関心に応じて体が動かせよう、安全面には十分注意しながら一緒に遊ぶ。 体操、フォークダンスは、木陰などの気持ちのよいところで行う。 年中、年長児のしている遊びに、保育者も一緒に参加し、ルールを知らせたり、応援したりして楽しさを共感し合えるようにする。 部屋の中でも好きな遊びがやりやすくなるようにしておく。 虫とり、木の葉拾いなど、秋の自然に触れる機会を大切に、 				

教育課程は、幼稚園における教育期間の全体を見通した計画です。幼児の発達の過程に応じて、どの時期にどのようなねらいを目指して、どのような指導を行ったらよいかを全体的に明らかになるように「ねらい」と「内容」で組織したものです。

したがって、教育課程は具体的な指導計画と密接な関係があり、指導計画を立案する際の骨子となります。

2 指導計画

教育課程の実施に当たっては、幼児の発達や生活の実情等に応じた具体的な指導の順序や方法をあらかじめ定めた指導計画を作成する必要があります。幼稚園教育の目標を達成するために、幼児にとってどの時期にどのような経験が必要かなどを見通して、指導の順序や方法についてあらかじめ予想し、計画性のある指導を行わなければなりません。

指導計画は教育課程を具体化したものです。教育課程に沿って具体的なねらいや内容、環境の構成、活動の内容、教師の援助等、指導の順序や方法を明らかにしていくことが必要です。

指導計画を作成するとき、年・期・月等の長期的な見通しをもったうえで、週・日等の具体的な計画を立てることが大切です。P 45からの例を参照しましょう。

3 指導計画の作成

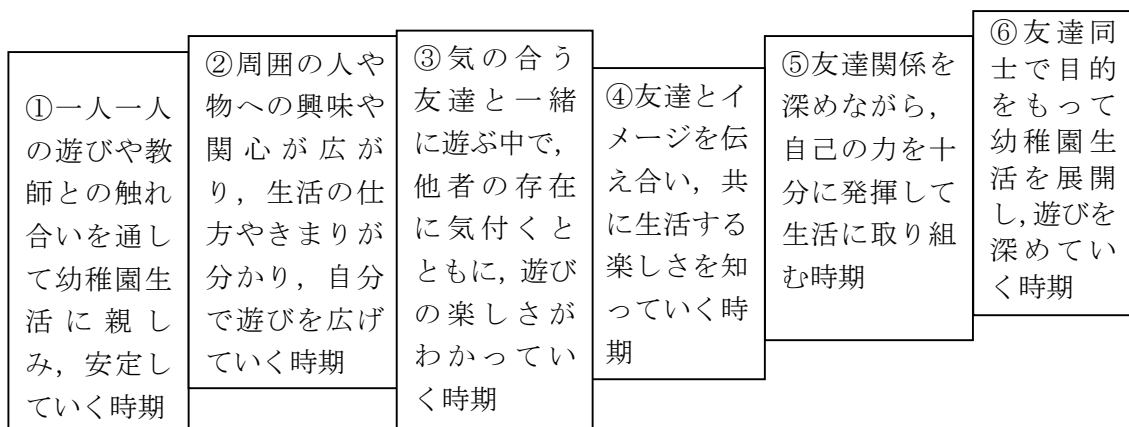
(1) 幼児の発達の過程

幼稚園では、日々の生活の中で、幼児が様々な経験を積み重ねていくことによって、幼児期に育てておきたい力が身に付くよう意図的・計画的な教育が行われなければなりません。

意図的・計画的な教育を行うためには、幼稚園の中で幼児の生活がどのように展開されていくのか、また、その中で幼児は興味や関心をどのように広げたり深めたりしていくのか、友達との関係はどのように深まっていくのかなどを捉える必要があります。

幼児の発達の過程は、次のように考えられます。

<幼児の発達の過程>



指導計画を作成するために何より大切なことは、幼児の発達の実態を捉えることです。

(2) 具体的なねらいと内容の設定

幼児の発達過程は、幼稚園生活における幼児の様相が大きく変わる節目を捉えたものです。実際の指導を行うためには、各時期に応じたねらいや内容が、幼児の姿にどのように具現化されていくかをあらかじめ考えていかなければなりません。

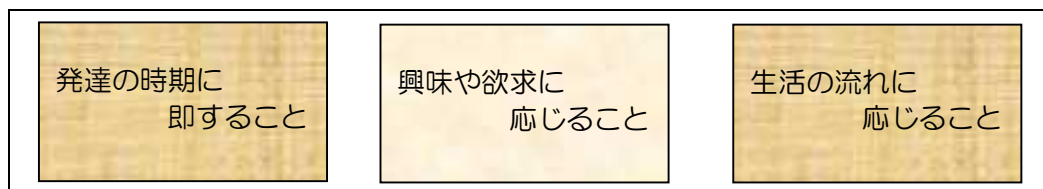
具体的なねらいや内容の設定にあたっては、長期的な見通しの中で、毎日の生活を捉えることが大切です。幼児の発達する姿を、年、期、月の期間で、ねらいや内容を想定することと、週や具体的な毎日の生活に応じて一人一人の幼児の興味や関心、発達の実態に応じてねらいや内容を明らかにすることの両面が必要です。

(3) 意図的な環境の構成

具体的なねらいを達成していくために幼児がどのような体験をすることが必要なかを、幼児の生活する姿に即して捉えることが大切です。このことは、遊具や用具等の物や他の幼児や教師などの人、身のまわりに起こる事象、時間、空間等を関係付け、幼児をとりまく環境を構成していくことにつながります。

「環境を構成する」とは、いろいろな遊具、用具、素材等を組み合わせたり、並べたりすることなど、物の構成のみを指しているではありません。環境には物や人、自然や社会の事象、時間や空間、それらがかもしだす雰囲気など、様々な要素が含まれています。そうしたものを相互に関連させながら、幼児が興味や関心に即して主体的に活動し、その活動の中で必要な体験を重ねていけるような状況をつくりだすよう心がけたいものです。

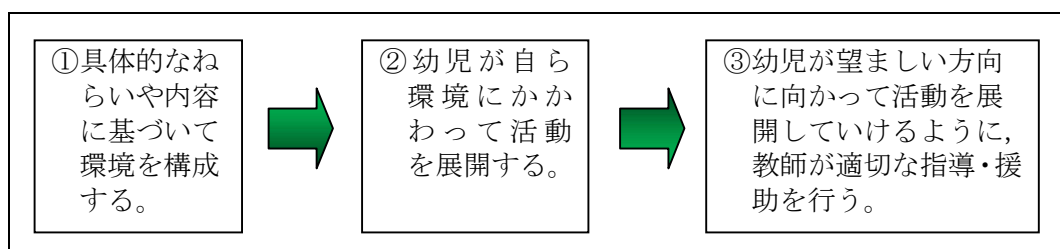
環境の構成を考えると、次の視点からどのような環境をつくりだしていけばよいかを十分に吟味することが重要です。



(4) 活動の展開と一人一人を見つめた適切な指導・援助

環境を通して教育を行うことの意味は、幼児が主体性を十分に発揮しながら生活し、幼児期に育つことが期待されるものを着実に身に付けていけるように環境を構成するということです。環境を通して教育を進めるとき、幼児が行う具体的な活動がどのようにして選択され、展開されるのかが大切になります。

具体的な活動の選択、展開は、およそ次のような過程を経て行われます。



適切な指導・援助は、ねらいに基づいて構成された環境の中で行われるものです。指導計画は、そうした環境の中で活動する幼児の様相を予想して作成されなければなりません。幼児は環境にかかわって様々な活動を生み出します。幼児の主体的な営みを大切にしながら、幼児が望ましい方向に向かって自分で活動を展開していけるような適切に指導・援助を行うことが大切です。そのためには、環境にかかわって活動する幼児の姿を予想し、どのような指導・援助が必要となるのかを考えておく必要があります。

活動の展開に応じた教師の指導・援助は、二つあります。一つは、承認、賞賛、励まし、助言などの直接的な声かけを行うことです。もう一つは、環境を再構成することです。どちらも幼児が自分で活動を展開し、ねらいを達成していけるように働きかけることが大切です。

4 園目標と週案・日案のかかわり

各幼稚園においては、幼稚園をとりまく地域の特色や環境を考慮して、幼稚園独自の園目標が立てられています。どの幼稚園でも、園目標達成のために、全体を見通し、教育内容の系統性と調和を考え、年間指導計画、月別指導計画等が立てられています。

一日一日の指導が積み重なって、園全体の教育が成り立つのですから、一日を単位とした週案や日案は大切なものとなります。

5 日案作成

幼稚園における指導計画の最小単位は日案です。各担任は「今日のねらい」を達成するために、一人一人の幼児の実態をよく把握して、「何を、どのようにに経験させるか」を考えながら、学級に適した日案を作成することが大切です。

日案や週案の形式はいろいろありますが、必要な項目と留意事項を述べます。

(1) 「一日のねらい」の設定

一日の指導計画作成に当たっては、特に週のねらいや内容から考えて、また、幼児の興味や関心を大切に、今日はどのようなことを主として活動させ、どんな力を身に付けさせるのかなど、その日の主な指導のねらいを具体的に明確にしておくことが大切です。

<「指導のねらい」の例>

- ・どんぐりで遊ぶ楽しさを味わう。
- ・感じたことや考えたことを様々な方法で表現する。
- ・社会における望ましい習慣や態度を身に付ける。
- ・自然に触れて、その美しさ、不思議さに気付き、理解する。
- ・自分の身体を十分動かし、進んで運動しようとする。

ねらいを設定するにあたり、どのように達成できるものかを考える必要があります。

①一日の活動を通じて達成できるもの	②主たる活動の中で協調して達成できるもの	③基本的な生活習慣や給食指導のように毎日繰り返すことによって達成できるもの	④一定の期間にわたって継続して指導することによって達成できるもの
-------------------	----------------------	---------------------------------------	----------------------------------

ねらいを立てるときの留意事項として、次のことが大切です。

- ①日案・週案を一緒にした形式のものを使っている幼稚園が多いです。週のねらいを決め、それを達成する環境の構成の計画を立て、幼児の活動を理解しつつ反省し、次の日のねらいを決めていく手順をふんでいます。
- ②前日の幼児の活動を振り返り、環境構成や、指導・援助の仕方を反省し、週・月等のねらいとの関連をおさえて、そこから設定します。
- ③ねらいは、具体的でよく分かるようにします。

(2) 一日の日課および幼児の活動

幼稚園では、幼児が登園して帰るまでの一日の活動すべてが教育そのものです。どの子どものびのびと楽しく活動ができるように配慮することが大切です。したがって、一日の日課は、小学校の授業のように45分ずつの単位で計画するのではなく、幼稚園の実態に合わせて、活動が展開されます。その日の主たる活動や、毎日決まって行う活動が組み合わせられた日課になります。

幼児の活動を展開するに当たって、次のことに留意する必要があります。

①幼児の動きを中心にして活動を仕組む。	②変更できるような弾力性のあるものにする。	③小学校併設の園では、互いに協調し合い、工夫して時間配分をし、主体的に楽しく活動ができるようにする。
---------------------	-----------------------	--

(3) 環境の構成の仕方

一日の指導のねらいを達成するために、幼児が生き生きと楽しい活動ができる望ましい場を構成します。用具、材料等を準備したり、器具、備品等を配置したりして物的な環境を整えるだけでなく、幼児の心をその活動に誘い込むような環境づくりを考えます。環境構成が適切なものであれば、幼児は自然にその環境の中で教師の予想した活動を楽しく展開し、ねらいの達成につながるのです。

環境を構成するときの留意事項を述べます。

- ① 幼児が自主的に活動できるように、用具、材料の種類、量、安全性を考慮し、それを使う場所、与え方など具体的に記入する。
- ② 分かりやすく図式化して記入する。
- ③ 準備は具体的に、しかも多様に行う。
 - ・木片(大・中・小の板切れあるいは木切れ、丸・三角・四角の木切れ等)
 - ・金槌(大・中・小の金槌)、釘(125mm・100mm・80mm・45mm・30mm等)
 - ・紙(新聞紙、広告の紙、色画用紙、画用紙、ワラ半紙、色紙等)
 - ・空き箱(菓子の箱、化粧品の箱、牛乳の箱、段ボールの箱)

- ④ 最初から与えすぎたり，完全なものにしたりするのではなく，遊びの進行・発展とともに，幼児自らが求めたり，考えたりするものを順次与えて，遊びの展開とともに環境を再構成させていくことが望ましい。
- ⑤ 教師は，一人一人の幼児を理解するように努め，その幼児にあった働きかけをしたり，遊びに加わったりすることが大切です。教師も環境の重要な一部です。

(4) 毎日の保育の記録

幼児の活動は，その日だけで終わることは少なく，少しずつ変化を見せながら，次の日へと続き，時にはかなりの期間にわたって連続していくことが多いものです。そこで，幼児理解を深め，一人一人に適切な援助を行うには，毎日の幼児の活動の様子や援助を記録し，その記録を累積していくことが大切です。

記録の方法は，次のようです。

- ① 少しの量でも，毎日続けるようにする。
- ② 記録の形式は，自分が書きやすいものを工夫したい。日案も兼ねて，その日の記録と次の日の予想される活動や援助を書き込めるようにするのもよい。
- ③ 記録用紙をいつも身近に置いて，その場で活動と名前だけでも記入しておくとし，後で詳しく記入するときに役立つ。

子どもの姿をありのままに	行動の意味を考えて	保育者のかかわり方をふりかえって
--------------	-----------	------------------

記録によって，実態を把握し，考察・反省し，次の保育計画に生かすことができます。

【記録の仕方の例】

<p><ありのままに> A 児が「鶏小屋の鍵をください」とやってきた。「今いくから待っててね」というと，「大丈夫，僕できるから」という。昨日は新入児に「この草，鶏もウサギも食べるよ。」と説明していた。行ってみると，「いつも A 児ばかり鍵を開けてくれる」「今日は私が開ける」などと言い争いをしていた。しばらくすると，自分たちで係を分担し始めた。</p>	<p><行動の意味> 年長組になったことへの期待で胸をふくらませ，自覚や自信があらわれた姿である。前年度の年長児がやっていたことへのあこがれと，よく観察をしようとする意欲が育ってきている結果である。 どのように行動したらよいのかの見通しがもてており，問題が起こったときの解決の仕方も話し合っでできるように育ってきた。</p>	<p><保育者のかかわり方> 子どもたちの「～したい」という気持ちを大切に，保育者が信頼して見守っているという姿を見せることによって，小動物への関心や小動物を大切にすることを育てることができると思う。自主的，積極的な姿が継続するように，えさのやり方などを少しずつ変えていく。また，任せっぱなしにしないように，見守ることを大切にする。</p>
--	---	--

※個人情報の取り扱いには十分注意すること

＜指導計画例＞ 3歳児 Ⅳ期

期のねらい	気の合う友達と一緒に過ごし、好きな遊びを楽しむ。
主な幼児の様相	<ul style="list-style-type: none"> ・見たもの、聞いたこと、思ったこと、考えたことを言葉や手振りで表現し、聞いてもらえることを喜ぶ姿が見られる。 ・楽しそうにしている友達の近づいてみたり、自分もまねをしてみたりする姿が見られる。 ・相手のことが気になり、友達のことを心配したりかばったりするようになる。
指導の視点	育てたい幼児の姿（指導内容）
心身の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な鬼ごっこ等、友達と同じ活動に参加し、体を動かして遊ぶ。 ・給食の前には、自分から進んで手洗いがいができる。 ・園外に出たときは、道路の端を歩き、友達や教師と一緒に交通安全に気を付けて行動しようとする。
人とのかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたい遊びが見つかり、必要な道具を用意し、気の合う友達と一緒に同じ遊びを楽しむ。 ・泣いたりけんかしたりしたときの友達の様子を詳しく話そうとする。
環境とのかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・木の葉、木の実等を集め、それを使っていろいろな遊びをする。 ・比較的おとなしいうさぎ等、身近な動物に関心をもち、いろいろな角度から観察したり、触れたりすることができる。
言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたいことや気持ち、困っていること、して欲しいことを言葉に置き換え、自分なりに思いを教師に伝えようとする。 ・教師や友達等、話す人の方を向いて話を聞こうとする。
感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な素材で好きなものをつくることができる。また、それを使って遊ぶことを楽しむ。 ・歌やリズムに合わせ、動物や列車等になって遊んだり体を動かしたりしようとする。
安全指導	<ul style="list-style-type: none"> ・園外に出かけるときのマナーや危険なことを聞きみんなでお出かけの時の並び方・道路での歩き方が分かり、練習する。 ・なかよし遊びの中で、遊具での危険な行為や他の人に迷惑をかける危ない遊びを行っている友達の話聞き、みんなでお約束したことを守ろうとする。

指導計画 11月～12月

〇〇幼稚園

主な指導の場と取り組み				
11月の主な行事	12月の主な行事	家庭との連携・保護者への働きかけ		
<ul style="list-style-type: none"> ○祖父母参観 ○遠足（秋探し） ●高齢者とのふれあい会 ○作品展 ●焼き芋祭お友達招待会 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育参観・懇談会 ○生活発表会 ○おたのしみ会 ●幼保合同お餅つき ○2学期終業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びが活発になり疲れることも多いので、十分に休息をとってもらようようお願いする。 ・衣服の調節やうがい・手洗いの励行等、健康管理に気を付けてもらうようお願いする。 ・園の行事・取組の目的と、園でのよい姿、2学期に成長したことを知らせる。 		
なかよし遊び（全園児参加の自由遊び）		学級活動（学級ごとの遊び・活動）		
<運動遊び> <ul style="list-style-type: none"> ○「鬼ごっこ」「かけっこ競争」「転がしドッジ」「固定遊具遊び」等 ・一人一人が逃げることを楽しさを十分味わえるようにする。 ・繰り返し遊ぶ中で、ルールがあることに気付かせる。 ・事故が起きないように安全点検をしておく。 <ごっこ遊び> <ul style="list-style-type: none"> ○「～マンごっこ」「お店やさんごっこ」「料理ごっこ」等 ・役になりきっている子を見守り、教師も一緒に参加する。 ・年中、年長児のお店やさんに、一緒に買い物に行ったり、お店やさんに入れてもらったりして、無理なく参加できるようにする。 ・いろいろな役になりきって遊べるようマント等、小道具を準備する。 ・自然の物を準備し、活用の仕方を示す。 <つくり遊び> <ul style="list-style-type: none"> ○「木の実ペンダント」「ケーキ」「ネックレス」「木工遊び」等 ・自然のものにはいろいろなものがあることを紹介して興味をもたせ、並べたり、重ねたり、貼り付けたりして一緒につくる。 ・自分が使った道具を洗って片付けることや掘った穴等、使った場所を元に戻しておくよう一緒に片付ける。 ・片付ける場所を絵等で示し、片付ける場所と手順を定着させる。 <砂場・水遊び> <ul style="list-style-type: none"> ○「山づくり」「川づくり」「ダムづくり」等 ・手や道具を使って、夢中になって楽しむ行為を認め、一緒になって遊ぶ。特に、見立てや感動にしたことに共感するよう心がける。 ・服が濡れた程度や気温を考え、体が冷えすぎないように配慮し、場合によっては着替えるよう働きかける。 ・着替えを用意させておく。スコップ・バケツ等、足洗い場の準備。 		<うた・おどり遊び> <ul style="list-style-type: none"> ○うた・おどり「輪になって踊ろう」 ○うた「げんこつ山のためきさん」 ・教師も一緒に歌ったり、踊ったりして、リズムにのって体を動かすことの楽しさを知らせる。 ・楽しくリズムをとったり体を動かせるよう、タンブリンや手拍子等を準備し活用する。 <ゲーム遊び> <ul style="list-style-type: none"> ○「あーぶくたつた」 ○「まる・さんかく・しかく」 ○「しっぽとり鬼ごっこ」 ・「あーぶくたつた～」 「いれて」 「いいよ」等遊ぶために必要な言葉が話せる。 ・簡単な合図やルールに従って遊びを楽しむことができる。なるべく幼児の意見を取り入れる。 ・ゲームができるような簡単な線を引く。また、ゲームに使うしっぽ等、簡単な小道具を準備する。 <表現遊び> <ul style="list-style-type: none"> ○「いっぱいとれたよ」芋掘りの絵 ○「何ができるかな」木の葉・実でつくる ○「べったんべったん」版をつくって押す ・体験したときの写真や感想の交流を通して、自分が一番印象に残ったことを中心に絵に描かせる。 ・木の葉や野菜等、季節を感じるものや自然のものを使って表現遊びの楽しさを味わわせる。 ・イメージを膨らます写真。材料や手ぶきを準備。 <飼育・栽培活動> <ul style="list-style-type: none"> ○芋の収穫、焼き芋祭（全園合同） ○お餅つき（全園合同） ・秋からお正月にかけての自然の変化、昔からの習わしや行事について話をし、行事に向かうめあてをもたせる。 ・地域の方や他の園との連絡。持ち物の確認等。 <朝の会・帰りの会・当番活動> <ul style="list-style-type: none"> ・当番さんの呼びかけに合わせて呼応し、お休み調べや片付け、着席ができるように援助する。 ・園図書館の借り方を説明し、みんなで借りに行く。 <給食活動> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなものも少しは食べ、頑張って食べている幼児を認め偏食が少なくなるように話をしする。 		
なかよし集会の内容（毎週月曜日の全園活動）				
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <ol style="list-style-type: none"> 1 集合・整列 2 あいさつ 3 仲間の遊びの紹介 4 歌「輪になって踊ろう」ペアーおどり 5 先生のお話 </td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> </table>			<ol style="list-style-type: none"> 1 集合・整列 2 あいさつ 3 仲間の遊びの紹介 4 歌「輪になって踊ろう」ペアーおどり 5 先生のお話 	
<ol style="list-style-type: none"> 1 集合・整列 2 あいさつ 3 仲間の遊びの紹介 4 歌「輪になって踊ろう」ペアーおどり 5 先生のお話 				
<11月の話題・指導> <ul style="list-style-type: none"> ・道を歩くときには ・薄着で頑張ろう ・うさぎのはなし ・園庭でのお約束 		<12月の話題・指導> <ul style="list-style-type: none"> ・頑張るお友達の紹介 ・ハンカチ、鼻紙をポケットに ・お星様のはなし ・お正月の遊び 		

<週案例> IV期 11月 第1週 (11/2~11/6)

〇〇幼稚園

	3 歳		4 歳		5 歳			
週の願い	〇気の合う友達と、いろいろな遊びを楽しむ。 〇秋の自然に触れ、親しむ。		〇自分の思いを出しながら、友達とかかわって遊ぶことを楽しむ。 〇身近な秋の自然に触れて楽しむ。		〇友達と相談したりイメージを出し合ったりして遊びを進めていく楽しさを味わう。 〇秋の自然に目を向け、遊びに取り入れる。			
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・好んで「入れて」「いいよ」を使い、遊びに入るためのルールが身に付いてきた。ままごとコーナーや砂場では、道具を共有したり、3～4人で役を決めたりして、ごっこ遊びが始めるなど、遊びを自分たちで進めていくことができるようになってきた。 ・もの見立てが豊かになり、廃材や紙で作品をつくったり描いたり、木の実や木の葉等、いろいろな素材を使ってつくり遊びを楽しむようになってきた。 ・簡単なルールのあるゲームや歌遊び等で、友達同士追いかけることや触れ合うことを楽しんでいる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒にごっこ遊びを楽しむ中で、自分たちのイメージに近づけようと廃材に必要なものをつくり、遊びの中に取り入れている。 ・気の合った友達とゲーム遊びをする中で、互いの意見を主張し合ったり、相手の意見を聞こうとしたりする姿が見られるようになってきた。 ・ドングリや木の実の落ち葉等をままごとに取り入れたり、おもちゃのアクセサリーをつくったりして遊んでいる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・木の実・種・廃材等、いろいろな素材を使ってアクセサリーやおもちゃをつくり、つくったもので遊びをしたりする姿が見られるようになってきた。 ・道具を使った「探検ごっこ」が始まった。遊びに必要なものをつくったり、段ボール等を組み合わせたり道をつくったり相談しながら遊びを進める姿が見られるようになってきた。 ・鬼ごっこや蛇じゃんけん、ボール遊び等、ルールのある遊びを楽しんでいる。 			
援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 〇ごっこ遊びでは、幼児達のイメージを大切にしながら、遊びに必要なものを教師が仲立ちとなってつくったり、共通のイメージで遊ぶことができるように言葉をかけたりする。 〇表現遊びでは、幼児の見立てやつもりの世界がより広がるように豊富な素材を準備し、遊び方や作品を紹介してまわりの幼児にも広げていく。 〇トラブルが起きた場合は、遊びを止めて、幼児が自分の気持ちを言葉で伝えられるよう援助する。 		<ul style="list-style-type: none"> 〇つくり遊びでは、廃材の見立てや工夫したところを認め、まわりの幼児に刺激となるように伝えていく。 〇自然物を使ったつくり遊びでは、作品に込められた一人一人のイメージを大切にしながら受け止め、よさを認めながら、まわりの幼児にも伝えていく。 〇幼児同士のトラブルの際には、両方の幼児の思いを受け止め相手の気持ちを受け入れたり、誘ったり、思いやることできるように言葉をかけていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 〇「探検ごっこ」では、幼児たちが相談することを促し、イメージをはっきりさせ、言葉に置き換えて代弁するなど、みんながイメージを共有できるようにする。 〇遊びの紹介を行い、いろいろなごっこ遊びを幼児たちに広げていく。 〇「つくり遊び」では、それぞれ幼児が工夫したところを認め作品を大切に展示するなどして広げていく。 〇好きな遊びを見つけられない幼児や友達とのかかわりが少ない幼児には教師と一緒に遊び、友達との橋渡しをする。 			
予想される活動	<p><運動遊び> 〇「鬼ごっこ」「丸・三角・四角」「ドッジボール」「へびじゃんけん」「固定遊具遊び」等 ・気の合う友だちと、園庭に線をひいて遊び場所をつくって遊ぶ。</p> <p><ごっこ遊び> 〇「～マンごっこ」「お店やさんごっこ」「料理ごっこ」「探検ごっこ」等 ・2～3人の好きな友達と一緒にになり、アニメの主人公等なって遊ぶ。 ・砂や色水をつくって料理ごっこをしたり、つくったものを並べてお店やさんをごっこをしたりする</p> <p><つくり遊び> 〇「木の実ペンダント」「ケーキ」「ネックレス」「木工遊び」等 ・木の実やボタン等、自然のものを並べたり、重ねたり、貼り付けたりしてつくる。</p> <p><砂場・水遊び> 〇「山づくり」「川づくり」「ダム作り」等 ・手やスコップ等、道具を使って、山や川等見立てながらつくる。</p> <p><遊具遊び・動物との触れ合い> 〇「ブランコ」「うんてい」「三輪車」「ウサギのだっこ」等 ・気の合う友だちと遊具を使って遊んだり、小動物と触れ合ったりして遊ぶ。</p>						環境構成のポイント	<ul style="list-style-type: none"> * 幼児の遊びのイメージや遊びが広がるような素材を用意しておく。 (雨樋、木切れ、木の実、種、ボタン、マカロニ、廃材等) * 見通しややり方が分かるような掲示や友だちの作品等、準備して飾っておく。 * 素材や用具は、自分たちで出し入れしやすいように分類したり、置き方を工夫したりする。 * 片付ける場所を絵等で示し、片付ける場所と手順を定着させる。 * いろいろな役になりきって遊べるようマント、ボンボン、ラジカセ等、小道具を準備する。 * お店の雰囲気を出せるような屋根がついた大きな箱やテーブルや椅子になるものを準備しておく。 * 遊びが発展していくように一緒に活動するとともに、幼児の発想を生かしながら環境を再構成していく。 * 着替えを用意させておく。スコップ・バケツ等、足洗い場の準備をする。 * 事故が起きないよう運動用具・遊具等、安全点検をしておく。
週の子定	2日(月)	3日(火)	4日(水)	5日(木)	6日(金)	家庭との連携		
	なかよし集会	文化の日	絵本の返却	絵本の貸出	祖父母参観			
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びが活発になり疲れることも多いので、家庭でも十分休息をとってもらいようお願いする。 ・幼児の遊びの様子を伝えるとともに、つくり遊びに使えるような材料(自然物や廃材等)をとっておいていただくようお願いする。 							

＜指導事例＞ 3歳〇組指導案

Ⅳ期11月第1週 〇〇幼稚園

平成〇〇年11月2日(月)		3歳児 〇組 男子6名 女子12名 合計18名		担任	〇〇 〇〇	
今週のねらい	○気の合う友達と、いろいろな遊びを楽しむ。 ○秋の自然に触れ、親しむ。 ＜関連する主な行事・活動＞ ・なかよし集会(全園活動) ・何かができるかな(表現遊び) ・祖父母参観	担任の願い	学級の目標「友達の気持ちを受け止めるころをもち、友達と仲良く遊び、精一杯活動する子」 なかよし遊び：興味ある遊びを夢中になって取り組み、仲のよい友達と一緒に楽しさを味わうことができる。 自然に親しみ、自然や道具を使って楽しく遊ぶことができる。 学級活動：友達や教師と一緒に楽しく遊んだり、活動したりすることができる。 困っている友達がいたら教師に知らせるなど、助けようとする。 生活習慣：友達や教師に対して、元氣よくあいさつができる。 自分の物と他人の物との区別ができ、みんなで決めた約束を守ろうとする。			
	環境構成		＊幼児の遊びのイメージや遊びが広がるような素材を分類して用意しておく。 (雨樋、木切れ、木の実、種、ボタン、マカロニ、廃材等) ＊見通しややり方が分かるような掲示や友達の作品等、準備して飾っておく。 ＊遊びが発展していくように一緒に活動するとともに、幼児の発想を生かしながら環境を再構成していく。 ＊着替えを用意させておく。スコップ・バケツ等、足洗い場の準備をする。	指導と援助	○ごっこ遊びでは、幼児達のイメージを大切にしながら、遊びに必要なものを教師が仲立ちとなってつくったり、共通のイメージで遊ぶことができるように言葉をかけたりする。 ○つくり遊びでは、幼児の見立てやつもりの世界がより広がるように豊富な素材を準備し、遊び方や作品を紹介してまわりの幼児にも広げていく。 ○トラブルが起きた場合は、遊びを止めて、幼児が自分の気持ちを言葉で伝えられるよう代弁などしながら援助する。	
1日の流れと指導			「芋版画あそび」学級活動の内容と援助・環境構成案			
時間	主な活動	主な教師の援助	時間	主な活動	主な教師の指導・援助	環境構成
8:30	○順次登園 ○なかよし遊び	・笑顔で迎え、一人一人の視診を行い体調等を把握する。 ・A男とB女と中心に遊び、一人一人の発想やよさを認める。	10:25	○うた「げんこつ山のためきさん」	○身体を使って楽しく歌う姿や、大きな声で歌う姿を認め、素晴らしいお友達にためきさんも喜んで話を話す。	＊黒板に資料を掲示しながら説明  ＊グループで活動させる ＊机上に赤、黄、青、緑等の絵の具
9:40	○片付け・移動	・進んで片付ける幼児を認め、感謝の言葉をかける。	10:30	○今日の遊びについて知る。 ・芋掘りした芋等を使ってペタンペタンして遊ぶことを知る ・新聞紙をひいて、タオルを準備する。	○どんぐり山等、秋になる実やできるものを発表させる。先日の秋の行事「芋掘り」を思い出させ、秋の自然がくれた芋を使って遊ぶことを話す。	
9:50	○なかよし集会(全園活動)	・並ぶ、聞くなどが意識してできるようよい姿の幼児を認める。	10:35	○準備ができたならやり方を知る。 ・絵の具の付け方 ・押し方(おまじない) ・頑張ること	○教師作品を見せ、どこから押したのか話しながら、どんな遊びをするのか、どんな風に遊ぶのか、内容・やり方、見通しがもてるような入り方をする。	
10:05	○移動 ・排泄 ・手洗い、うがい	・排泄を済ませ、手洗い、うがいが自分からできるようよい姿の幼児を認め、できたかどうか確認する。	10:45	○各自がいろいろな色や版を使ってスタンプングを楽しむ。1枚目。	○服装を確認し、新聞紙、タオルを準備させる。 ○絵の具をしみこませたスポンジ皿や絵の具を準備し、絵の具の付け方、押し方(おまじないを言う)を説明しながら実演する。	＊秋の食べ物の絵 ＊芋、芋版 ＊教師作品 ＊絵の具、筆 ＊スポンジに絵の具を染み込ませたスタンプも準備する。 ＊教師もスタンプしながら大きさや形の違いに気が付かせる。 ＊幼児の作品 ＊教師の作品2 ・模様をつくったもの ・へびのように続けて押ししたもの ＊版面を△型や☆型に押し付けてへこませた模様をつくった版を示す。 ＊全員の作品を並べる位置を決めておく。
10:15	○朝の会 ・あいさつ・うた ・健康調べ	・全員がそろっているか確認し、当番を援助しながら進める。 ・健康調べの結果を園長先生の所に報告させ返事を発表させる。	11:00	○各自がいろいろな色や版を使ってスタンプングを楽しむ。2枚目。	○いろいろな色やいろいろな形の版を使って、たくさん押すことを頑張るように話す。 ○幼児の1～2人指名をして、どんな風に頑張るのか話を聞く ○自分から取り組みない幼児は、一緒に押していく。 ○きれいに押ししているもの、色がきれいなもの、並べ方がよいもの、何かにみえるものを認め、並べ方や何かをイメージして押ししてみるよう促す。	
10:30	○学級活動「芋版画あそび」	・手洗い、うがいを確認して着席させ、待つ姿を認める。 ・当番のよさを認める。	11:10	○きれいにつくったお友達のように楽しい模様や何かの形に版で押ししてみることを話す。	○大きさの違うものを押して模様のようにしたもの、同じものを続けてへびにしたような教師の例を見せ、いろいろな押し方を工夫するように働きかける。 ○版面をビー玉や型に押し当ててへこませ、版面に模様をつくり楽しむことを見せる。	
11:20	○給食準備 ・排泄 ・手洗い、うがい	・手洗い、うがいを確認して着席させ、待つ姿を認める。 ・当番のよさを認める。	11:20	○各自がいろいろな色や版を使ってスタンプングを楽しむ。2枚目。	○作品を見ながらつくった幼児の思いや感想を聞き、作品や発想、取組のよさをみんなで認め合う。 ○作品や机を汚さず丁寧につくった幼児や、友達と仲良く協力して活動した幼児の姿を全体場で認め、片付けに入る。	
11:50	○給食	・秋の食材や栄養について話しながら、残さず食べるよう促す。				
12:30	○給食片付け	・給食の片付け方を確認し、片付いたら帰りの準備をするように話す。				
13:00	○お帰り準備 ・排泄、手洗い	・帰りの準備ができたなら、どこでどのように待つのか確認する。				
13:10	○帰りの会 ・今日のお話・絵本 ・帰りのうた	・なかよし遊び、学級活動、園での生活から、遊びや秋と親しんだ感想を聞きながら、よいお友達の姿を紹介し認める。 ・一人一人抱きしめて帰す。				
13:30	○降園					

保育指導案の書き方

本時の保育のねらいを実現するための意図的な環境構成や指導・援助について記述します。

例)「〇〇な活動を仕組むことで、または△△な環境構成を仕組むことによって、Aさんを～する姿にしたい。」「～な環境を設定することで、後片付けを主体的に取り組めるような姿にしたい。」「～という環境を設定することで、BさんとCさんがかかわりを持ち、学級全体が一つの集団としてなかよく遊ぶことができるようにする。」

環境を構成するにあたって、遊具や用具、素材などに物的環境についても具体的に記入します。

活動名から本時の内容が具体的にイメージできるようにします。

「活動」にどんな教育的な意味があるのか、また、環境設定が、幼児期の特性に照らし、いかにふさわしいものであるかを記入します。

〇〇学級指導案

指導者 〇〇〇〇

〇歳児 (名)

- 1 活動名
- 2 活動のねらい
- 3 幼児の実態
- 4 本時について

ねらいから見て、自分の学級の幼児たちがどんな実態なのか、記入します。

幼児の伸ばしたい面や、今、指導しなければならないことなどをとらえ、必然性のある活動の設定につなげます。

幼児の姿で具体的に描きます。

例えば……

「ルールを理解し体を動かして集団で遊ぶ楽しさを味わう。」には、二つの要素があります。

- ①ルールを理解すること
- ②集団で遊ぶ楽しさを実感すること

学級の実態に合わせ、本時のねらいは、1つの要素にしぼり込むことが大切です。

例えば「鬼ごっこ遊びを通して、約束を守ると楽しいことに気付かせる。」といったねらいを設定することができます。

5 本時のねらい

活動の様子	教師の指導・留意点
・幼児の予想される活動	○教師の具体的な指導・援助を記入します。

自分の働きかけや環境設定によって、一人一人がどのように活動するのか、具体的にイメージしながら記入します。あらゆる場合を思い描き、ねらいに基づいた環境の再構成まで具体的に考えることが大切です。

「教科書がない幼稚園では、環境構成が教科書である。」

「様々な手段をポケットに入れておく。」

ねらいを実現するために活動を精選します。

保育指導案例 5歳児〇組指導案（晴天の場合）

本時のねらい

- ・異学年とのかかわりを深める遊びを通して、相手の立場に立って考えることができる思いやりの心を育てる。
- ・ルールのある遊びを通して、友達と一緒になかよく遊ぶ楽しさを味わう。

1 活動名 どかんじゃんけん(陣地取りじゃんけん鬼遊び)

2 活動のねらい

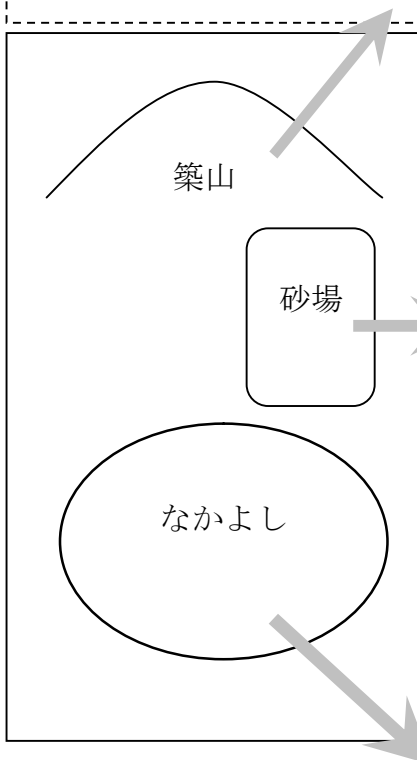
「どかんじゃんけん」の決まりを年少児に教えることを通して、自分が人の役に立つことの喜びを味わうことができる。

3 幼児の実態

学級ではリーダー的な存在であるA児、B児、C児であるが、3、4才児に対しては思いやりの言動に欠ける場面が多い。

4 本時について

年少児に「どかんじゃんけん」のきまりを教える機会や、築山から下るというコースを設定し、年長児が年少児と手をつないで一緒に走る機会を意図的に仕組む。このことにより異年齢児同士のかかわりを多くし、思いやりの心を育む。また、この遊びを通して育まれたA児、B児、C児のよさを、他の幼児にも伝え、思いやりの心をもって遊ぶ楽しさを価値付ける。



1 活動名 大きな大きな山をつくろう(砂場遊び)

2 活動のねらい

一人一人が役割をもち、力を合わせて山づくりを通して、友達と一緒に仲良く遊ぶ楽しさを味わう。

3 幼児の実態

D児、E児は一人で造形遊びに夢中で取り組むことや、集中して作業に向かうことは得意であるが、自分から友達に関わって遊ぶことや、自分の思いや感情を相手に伝えることを苦手としている。そのため、友達との間にトラブルが多い。また、何事に対しても消極的で指示されてから動くことが多い。

4 本時について

砂場で山を作る。グループはD児、E児をリーダーとする2班にするとともに、メンバー構成を意図的に年少児や年中児を多くし、彼らがリーダーとなることに必然性をもたせる。砂を固める方法を知っているD児のよさをグループに知らせることによって、D児に自信をもたせる。E児にもスコップを持たせ、教師がE児を頼る場面を作ったり、出番を多くしたりすることによって自信をもたせ意欲的な姿をつくる。遊び終了の振り返りでは、D児、E児の活躍を認め、一緒に力を合わせてやり遂げるすばらしさを価値付ける。

1 活動名 ドロ・ケイ(鬼ごっこ遊び)

2 活動のねらい

ルールのある遊びを通して、友達となかよく遊ぶことの楽しさを味わう。

3 園児の実態

常に中心になって遊びをリードしているF児、G児、H児であるが、順番や約束を守ることができないことが多い。

4 本時について

年少園児に年長園児がルールを説明する機会を設定し、かかわりを多くもたせる。けんか等が生じたときには、F児、G児、H児中心に話し合わせ、より楽しく遊ぶためのルールをつくったり、つくり変えたりする機会を設け、F児、G児、H児に約束を守ることの大切さや、そうすることで遊びが一層楽しくなることに気付かせる。

遊びが終わったときに、遊びの振り返りを行い、F児、G児、H児の成長を認め、約束を守ることの大切さを価値付ける。

毎日の記録のいろいろな形式

(1) 日案と日の記録を兼ねた形式

〇〇〇組

担任

☆☆☆☆

10/25 (水) 天気 晴れ		給食					主な活動 (行事) なかよし給食	<ねらい> 友達と思いを伝え好きな遊びを楽しむ。	<指導> 椅子の扱い方 シール貼り	1日を振り返って 今日は雨上がり。園庭の状態が悪いが、外へ行きたいのが子どもたち。でも、思ったほど外へ行かず、昨日初めて出したスケッチブックでお絵かきや粘土遊び。そのうち、パクパク人形がほしいとの声に作ってあげると、私も私もの声。人数が多いから大変。でも頑張ってくれてうれしい。	
		葉	オ	ち	ウ	切					
1	A児	○	○	○	○	/	当番の仕事 テーブル拭きや手洗い潤についてちょっと声をかけるとどんどん進めた。エプロンたたみも上手にできた。	三輪車で競争 午後片づけた後 合わせてバスごっここの後に昨日のように椅子を積み上げた男の子。 ↓ 「もういす組さんには貸してあげられないとおじさんから電話があったから片付けちゃった。」 ↓ ◎椅子は座るものであるけれど投げたり積んだりするものではない。 「投げて頭や体に当たるとけがをして血が出て大変です。」 どの子も真剣に聞いていた。	G児が乗っていた三輪車 Tも同じものを見つけて乗り、2人で競争した。 砂場→ゆうぎ室前→鳥小屋→砂場 Tも必死になって追いかけた。	次はI児と さすがに2回目は足が疲れていた。B児とC児が後ろから押してくれる。「あ～あ、B君に負けちゃった。せっかくみんな押してくれるのに」	
2	B児	○	/	○	○	△					
3	C児	/	△	○	○	△					
4	□□ □□	○	○	○	○	○					
5	□□ □□	○	△	○	○	/					
6	□□ □□	○	△	○	○	△	給食袋を振り回す	運動会ごっこではなく、こうした遊びを久しぶりにたくさんできたと感じた。 運動会はいろいろ大変であるが、子どもにとって運動会は一部のことと言われたこと。もっともだと振り返る。	園長先生より 子どもがそばに来るのではなく、保育者が自分から関わろう。自分から外に出かけようとするのが大切です。		
7	□□ □□	○	○	○	○	/	危ないと教える				
8	□□ □□	/	○	○	○	△	小さい子が給食をこぼしていないか見てあげてと話す。さっさと見てくれるA児の姿を知らせる。				
9	□□ □□	/	/	○	○	/					
10	□□ □□	○	○	○	○	△					
11	□□ □□	○	/	○	/	○					
12	□□ □□	△	△	○	/	/	いつも以上に食欲なし			帰りの会「今日のニュース」 ・D児の持ってきてくれたインコの紹介 (どこで飼っていたのか) →前に出て話してもらう ・いいこと見つけ F児 ほうきで頑張って掃除ができた。 E児 「まだ考えていない」ということでそのまま席に戻る。 そこで そのまま戻らせるのではなく、今日のE児のよさを代わりに紹介するという機転が利くとよかった。やる気を見せてくれたのに、認める言葉をかけられなかったことに反省。	机 オルガン 廊下 手裏剣を作っていて… J児「Kちゃんたち、ちっとも入れてくれへん。」 K児「入れて」「いいよ」 T「あつ。Kちゃん仲間に入ったよ」 J児「いれて、いれて」 ※L児、M児も加わった廊下遊び。
13	□□ □□	○	○	○	○	○	給食の片づけもずらりと並んで片づけること、上手になってきている。部屋へ戻る時も帰る時もTに声をかけてくれる子がふえた。 B児C児の表情、言葉が…				
14	□□ □□	○	△	○	△	/					
15	□□ □□	○	△	○	△	○					
16	□□ □□	○	○	○	○	/	廊下のスペースで 戸外よりも死角になる廊下。自分から遊びに入ってみる。きりん組のままごとと道具とサークルブロックをフル活用している。他ごとをしている子は一人もいなく、今日のメンバーにとっては充実していた。				
17	□□ □□	○	○	○	○	/					
18											

(2) その他の形式 その1

〇〇〇組 担任 ☆☆☆☆

2 / 1 2 (水) 晴れ		欠席 2人		<基本的な生活習慣> 目と耳で聞く		◇保育に当たって ・三連休明け。子どもたちの表情をみたりつぶやきに耳を傾けたりしながら一日を過ごす。 ・A児の役柄を決めよう。		帰りの会 絵本・紙芝居 ・毎日劇の練習ばかりで遊ぶ時間もないし、大変でえらいけど、みんな頑張っているし、Tもみんなが頑張っている姿を見るとうれしくなる」と励ます。			
<本日の取組> 午前：3匹のこぶた 午後：王様の耳				<本日のねらい> 自分の出るお話の練習に参加しようとする							
<今日の当番> かに G <リーダー> B児		葉 め	オ ム	ち く	ウ イ	切 り	歯 み	メモ			
		し	レ	わ	ン	大	が				
		ツ	天	ナ	根	き					
1	A児	○	○	○	○	/		朝上履き取られ機嫌△			
2	B児	○	/	○	○	△		給食当番はりきる			
3	C児	/	△	○	○	△		給食片づけ最後			
4	□□ □□	○	○	○	○	○		帰る直前、不調を訴える			
5	□□ □□	○	△	○	○	/		集中して話が聞けない			
6	□□ □□	○	△	○	○	△		欠席(かぜ)			
7	□□ □□	○	○	○	○	/		裏で転び、ズボン着替え			
8	□□ □□	/	○	○	○	△		キャップに夢中			
9	□□ □□	/	/	○	○	/		「豆落ちとった」と拾う			
10	□□ □□	○	○	○	○	△		役柄決まらず			
11	□□ □□	○	/	○	/	○		今日、ピアノと大張り切り			
12	□□ □□	△	△	○	/	/		片づけの音楽がなってから遊び始める。			
13	□□ □□	○	○	○	○	○					
14	□□ □□	○	△	○	△	/		パクパク人形作り			
◇ねらいより 遊びに行く時も「赤ずきんまだ？」と気にしながら遊ぶ姿が見られ、劇練習に対する意欲が伝わってきた。明日は楽器練習もしてみよう。 「こぎつね」に合わせて		・ 楽器		・リズム							
						35人 太鼓、シンバルは少人数でいいのではないかと。 たいこ(4、5人)、シンバル(3人)、ボンボコ タンバリン、カスタネット、トライアングル、すず(6、7人)					
						1日様子を見て何度も声をかけていたが自分のやりたい役がなかなか決められないA児。帰りの会の際にS先生が話をしてくださる。昼前に「つまらなくてやると一ない」といっていたが、この言葉の裏側には次のようなことが隠れていたことがわかった。 『パパもママもこれんもん』 A児にはこのことがひっかかっていたため、なかなか意欲的になれなかったのかもしれない。そこで、 ☆お家の人に見てもらうために頑張って練習することも大切だけど、「こんなお話しができるようになったよ」とか「歌もたくさん覚えるようになったよ」とか「ダンスができるようになったよ」といったことをみんなでやることって大事なんだよ。(S先生) と伝えると静かに聞いていた。A児はきっと心の中で戦っているのだろう。夜、お母さんにTEL。このことを伝える。これから時々連絡を取り合って☆のを中心に励ましていこうということになる。やはり、お家の人が見に来ないとなると、張り合いがないが、何とか励ましていく中で、友達と演技をする楽しさを味わえるようになってほしいと願う。					
						かごでCAR! かごに1人入り、それを引っ張ったり、押ししたりして動かす。乗っている方も動かす方も楽しいんだ。 しかし、思うように進まない。そこで、いいことを思いついたのはJ児。もとあるウッドカーにかごを乗せてみた。かごに入る子はバランスをとりながら…。押す方も落とさないように…とお互いに考えながら、遊んでいた。 G児について 朝一番でH児、I児、F児と関わる。今日カードを持ってきた。生き生きとした表情を見せる。打合せでS先生とも話したのだが、最近、様子が変わってきた。前に比べてよく笑っている。そう思うとK児と一対一で関わることはほとんどなくなってきた。いい方向に動いているのだろう。このまま見守ってみよう。					
						環境構成 絵・図					
						環境構成 絵・図					

(2) その他の形式 その2

〇〇〇組

担任

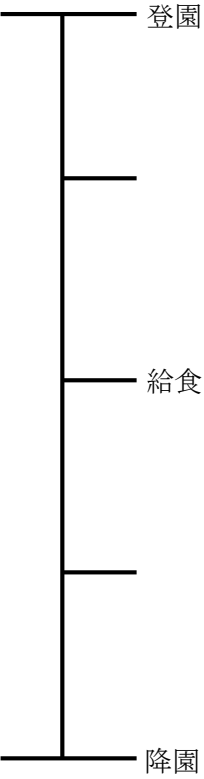
☆☆☆☆

月 日 () 天気		ねらい		
欠席		主な活動 (行事)		
		その日の印象に残る活動の姿		
1	A児			
2	B児			
3	C児			
4	□□ □□			
5	□□ □□			
6	□□ □□			
7	□□ □□			
8	□□ □□			
9	□□ □□			
10	□□ □□			
11	□□ □□			
12	□□ □□			
13	□□ □□			
14	□□ □□			
15	□□ □□			
16	□□ □□			
17	□□ □□			
[絵本・紙芝居]				
◆今日の話		◆1日を振り返って ◆明日に向けて		

- ・子どもの具体的な様子とそれに対する考察
- ・教師の援助
- ・環境構成のポイント 等

- [集団の中で・・・]
- ・予想される活動
 - ・具体的な様子とそれに対する考察
 - ・教師の援助

(2) その他の形式 その3

〇〇組		月	日	曜日	天気 ()	欠席 ()	担任	☆☆	☆☆
番	氏名	活動の様子			番	氏名	< 1日の生活の姿 > 	< 明日に向けて > ・ 予想される活動 ・ 予想される活動、環境構成のポイント ・ 教師の援助 等	
1	A児			1	□□ □□				
2	B児			2	□□ □□				
3	C児			3	□□ □□				
4	□□ □□			4	□□ □□				
5	□□ □□			5	□□ □□				
6	□□ □□			6	□□ □□				
7	□□ □□			7	□□ □□				
8	□□ □□			8	□□ □□				
9	□□ □□			9	□□ □□				
10	□□ □□			10	□□ □□				
< 心に残った子 > ・ 特に気にかかった子の様子 ・ 教師のかかわり									

4 遊びの工夫

幼児の活動は、環境の構成の仕方によって方向付けられますが、幼児の発達の実態や環境の受け止め方によって一定のものとはならず、教師が予想するものとは違った展開をすることが考えられます。そうした場合にも、幼児の発想やそこに展開された活動を大切にしながら、幼児が望ましい方向に向かって自ら活動を展開していけるように、環境を構成する上で次のような適切な配慮を行うことが大切です。

【環境構成の意味】

- 具体的なねらいや内容にふさわしいものとなるようにする。
- 幼児の生活する姿に即して、その時期にどのような経験を積み重ねることが必要かを明確にする。
- 状況をものや人、場や時間、教師の動きなどに関連付けてつくりだすようにする。

そのために次のような視点を大切にします。

★発達の時期に即した環境	★興味や欲求に応じた環境	★生活の流れに応じた環境
(1) 状況をつくること		
①幼児の中に興味や関心がわいてきて、かかわらずにはいられないような状況をつくること。		
②自ら次々と活動を展開していくことができるように配慮され、構成されていること。		
③一人一人の幼児の中に何を育みたいのか、どのような経験を必要としているのかを明確にし、個に応じた環境であること。		
＜そのためのポイント＞		
・必要な素材や用具が容易に使えるように用意されていること。		
・用意された素材や用具が、それぞれの間につながりを見いだしたり、これまでの生活経験とかかわらせたりすることができるようなものであること。		
・環境全体が緊張や不安を感じさせるような雰囲気にならないこと。		
(2) 幼児の活動に沿った環境を構成すること		
①幼児の視点に立って環境を構成すること。		
②一人一人の興味・関心、願い、つまずきを見極めること。		
＜そのためのポイント＞		
・幼児一人一人の特性を理解し、個に応じた用具の準備や環境の設定をすること。		
・どこまで教師が用意し、子どもたちは何を体験することで楽しさや充実感を味わうことができるかを考慮すること。		
(3) 幼児の実態に沿った環境の再構成をすること		
①活動に取り組む幼児の言動を捉え活動が充実するよう援助を重ねながら柔軟に対応していくこと。		
＜そのためのポイント＞		
・固定的な環境ではなく、幼児の発達に意味のあるものとなるよう再構成をしていくこと。		

ここに載せた事例は、上述の考え方を基にして実践されたものの一部です。実践に生かすためには、特に下記の点に留意する必要があります。

- ① 各領域に示された「ねらい」や「内容」を視野に入れ、相互の関連を考慮しながら設定していく。
- ② 教師が一方的に選択して与えるのではなく、幼児の主体的な活動としての遊びを大切にすること。
- ③ 事例の遊び（〇〇ごっこ、〇〇遊び）だけではなく、友だちの遊んでいる様子をじっと見ていることや、走り回るなどの素朴な活動にも意味があるものとして大切に受けとめる。
- ④ 自発的な幼児の活動は、どのようなものであっても個々の幼児にとっての意味があり、指導に当たっては、どのような状況の下でその活動が生まれたのかなどを十分に理解する。
- ⑤ 幼児が遊びの中で十分に体を動かすことを通して、健康・安全な生活に必要な習慣や態度を身に付けることができるように、園庭や園舎が幼児の遊び方に配慮したものであるようにする。

身近な自然や動植物に触れて遊ぼう

つき山あそび

- ①ねらい
 - ・いろいろな遊びに挑戦しながら、工夫、発見をし、遊ぶ楽しさを十分に満喫する。
- ②活動例
 - ・段ボールにのって何回も滑り降りる。
 - ・2組に分かれ、段ボールに乗って、山から滑り降り、次の友だちにタッチする。
 - ・速く滑り降りるための工夫をする。
- ③環境構成の工夫
 - ・段ボールやビニールシート等、滑る道具を選択できるようにする。
- ④留意事項
 - ・「行くよ!」「いいよ!」とかけ声を掛けるなど、衝突を避けるためのルールを考えさせる。

砂場あそび

- ①ねらい
 - ・砂や水の感触を楽しみ、友だちと一緒に考え、力を合わせて、山、トンネル、水路、橋、池（海、湖）等を作り、ダイナミックに遊ぶ。
- ②活動例
 - ・砂山やトンネル、水路などを作る。
 - ・分かれ道を作ったり板を渡して「橋」を作ったりして工夫する。
 - ・砂山にトンネルを作って道をつなげる。
 - ・できあがった水路にもものを浮かべて池（ゴール）までいくかどうかを楽しむ。
- ③環境構成の工夫
 - ・水路を作るための桶、竹（2つに割ったもの）等を用意する。
 - ・水路に流す水を運ぶためのじょうろやバケツ等、人とかかわりのねらいに応じて用意する。
- ④留意事項
 - ・砂場の衛生管理（日光消毒、消毒、ゴミや異物の除去等）

- ・水に濡れた時の対応として、着替えの準備。
- ・手洗い，足洗い場での指導。

泥粘土あそび

①ねらい

- ・土粘土（紙粘土）の感触を十分味わう。
- ・友だちと好きな食べ物を作って遊ぶ。

②活動例

- ・土粘土を手で十分にこねて，感触を味わいながら，好きな形を作っていく。
- ・いくつかの物を作っていくにつれ，イメージが膨らみ，お店屋さんごっこへと発展したり，自分の宝物となる作品を作ったりする。

③環境構成の工夫

- ・作った物をより楽しむために，着色をするための絵の具を用意する。

④留意事項

- ・粘土を切ったり，粘土に穴を開けたりする粘土ヘラの安全な使用にかかわる指導。
- ・幼児の作った作品をおいしそうに食べる姿を見せ，製作の喜びを味わわせる。

シャボン玉あそび

①ねらい

- ・身近な素材を使って，シャボン玉遊びを楽しむ。

②活動例

- ・よりたくさん，より大きく，より長い時間飛ぶシャボン玉を作ろうとする。
- ・友だちとシャボン玉の大きさや数，滞空時間を競いながら楽しむ。

③環境構成の工夫

- ・シャボン玉の大きさや数，滞空時間など，幼児の願いに応じていける道具（洗面器・たらい・バケツ・大きさの異なる輪等）を準備しておく。
- ・オシロイバナやサング樹の葉，ツツジの花等でもシャボン玉を楽しむことができることを知らせ，自然物への興味・関心を高める。

④留意事項

- ・天候に配慮する。（風のない日）

葉っぱあそび

①ねらい

- ・自然に親しみ、葉っぱを集め、形のおもしろさや葉脈の美しさに気付く。

②活動例

- ・いろいろな葉っぱの指紋作りをする。
- ・ローラーで連続模様作りをする。
- ・落ち葉のコラージュ

③環境構成の工夫

- ・落ち葉の季節に、園庭に落ちている枯れ葉を集める活動から遊びが始まるようにする。

④留意事項

- ・葉っぱを重ねたり、並べたりしてできあがる作品のよさを求めるのではなく、幼児が葉っぱを何に見立てているのか、また葉っぱのどのような特徴に気付いているのかなどをとらえ、幼児の感じ方や見立てのよさを価値付ける。

色水あそび

①ねらい

- ・身近な自然物に親しみ、友だちと一緒に工夫したり考えたりして、模様の変化を楽しむ。

②活動例

- ・クローバーやいろいろな雑草、アサガオ、サルビア、ペチュニア等で色水作りを楽しむ。
- ・できた色水をジュースに見立て、ごっこ遊びに発展していくこともある。

③環境構成の工夫

- ・色水の色を楽しむための容器（ペットボトル やこし器、漏斗等も実態に応じて用意する。）

④留意事項

- ・できた色水を、何に見立てているのかを受けとめ、見立てのよさを価値付ける。

わらあそび

①ねらい

- ・秋の自然の中で、思いっきり体を動かして遊ぶ。
- ・新しい素材（わら）に出会い、その感触を楽しみながら遊ぶ。

②活動例

- ・わらの中に入り、体全体でわらの感触を楽しむ。
- ・わらを積み上げたり、敷き詰めたりしながら、遊びを発展させていく。

③環境構成の工夫

- ・遊びの様子を見ながら、段ボール箱、くい等の材料も準備し、併用していく。

④留意事項

- ・地域の方をお願いして、刈り入れの済んだ田んぼで遊ばせてもらえるように依頼するとよい。
- ・遊んだ後のわらの整頓なども、ゲーム化するとよい。

木の実あそび

①ねらい

- ・秋の自然に目を向け、木の実等に触れて楽しむ。
- ・木の実を使ったおもちゃで楽しく遊ぶ。

②活動例

- ・どんぐりごま
- ・マラカス（空き缶の中に木の実を入れる）
- ・アクセサリー
- ・リース

③環境構成の工夫

- ・どんぐりや松ぼっくりなどの木の実や枯れ葉
- ・つまようじや釘等，子どもの遊びを広げるもの
- ・着色したり飾りをつけたりできるもの
- ・どんぐりごまで対決できるための土俵 等

④留意事項

- ・どんぐりに穴をあける時の安全面への配慮として，粘土にどんぐりを埋め込んで穴を開ける。

あわあわあそび

①ねらい

- ・泡の感触と泡作りのおもしろさを味わいながら，いろいろな遊びを工夫して楽しむ。

②活動例

- ・ソフトクリーム作り
- ・ケーキ作り
- ・クリームソーダ作り

③環境構成の工夫

- ・クリームが作りやすい固形石鹸（クリーミータイプの石鹸よりも，安い石鹸の方が作りやすい。）
- ・クリームを作るためのボール，泡立て器，おろし金，着色するための絵の具等の準備。
- ・ケーキ台として幼児が考えるであろう角材，粘土等や，飾り付けに必要とするであろうクリームを絞り出す物等，幼児の気付きを生み出す材料の準備。

④留意事項

- ・「作るあそび」から，できあがったケーキやソフトクリームを使った「ごっこあそび」に発展していくとよい。

身近な自然や動植物に触れて遊ぼう

積み木あそび

①ねらい

- ・友だちと考えを出し合いながら力を合わせて作る。
- ・作ったものを使って遊ぶ。

②活動例

- ・くみあわせてあそぼう
- ・ころがしてあそぼう

③環境構成の工夫

- ・友達と考えを出し合いながら遊びを発展させていけるように、広い場所で活動を構成する。
- ・幼児のアイデアを聴きながら、遊びに必要な材料を用意する。
- ・球状の積み木があることで、「転がす」という要素が入り、遊びのバリエーションが広がる。

④留意事項

- ・木材の角が面取りされていることを確認する。
- ・運ぶ時に足の上に落とさないように配慮をする。

段ボールあそび

①ねらい

- ・ダンボールの素材を楽しみ、友だちと考えを出し合いながら、工夫して遊びを進める。

②活動例

- ・おぼけやしきあそび
- ・めいろあそび
- ・おうちごっこあそび

③環境構成の工夫

- ・継続して遊ぶことができるコーナーを設ける。
- ・ダンボールという素材に十分触れることから遊びへと発展させていく。
- ・大小様々なダンボールを用意する。

④留意事項

- ・高く積み上げた上に乗る、そこからの落下によるけがに気をつける。
- ・ダンボールに色を塗ったり、色紙を貼ったり、絵を描いたりなど、様々な活動へ発展していく。

劇あそび

①ねらい

- ・自分の考えやイメージからお話を作って、言葉や動きで表現することを楽しむ。

②活動例

- ・園にある指人形やぬいぐるみを用いた劇あそび
- ・自分たちで作ったペープサートで劇あそび

③環境構成の工夫

- ・日常的に行われている「教師の読み聞かせ」で、「表現をすることのおもしろさ」や「伝えることのおもしろさ」を幼児が味わえるような絵本を選んで聞かせたり、指人形やぬいぐるみ等を活用したお話などを意図的に行ったりしておく。

④留意事項

- ・演じる子とお客さん等、交代しながら雰囲気作りをすると、より効果的な遊びとなる。

木片あそび

①ねらい

- ・いろいろな木片を組み合わせたり、釘を打ったりして遊ぶ。

②活動例

- ・乗り物作り
- ・ゲーム作り（パチンコ・コリントゲーム）
- ・建物作り

③環境構成の工夫

- ・幼児のイメージが膨らむように、様々な形や大きさの木片を集めておく。
- ・木片の面取りをしておく。

④留意事項

- ・釘打ちを楽しめるよう、安全面を考えた配慮を行う。

新聞紙あそび

①ねらい

- ・全身を使って新聞紙を破ったり、ちぎったり丸めたりして楽しく遊ぶ。

②活動例

- ・細かくちぎって「雪あそび」
- ・体に巻き付けて「ファッションショー」
- ・丸めてボール投げ

③環境構成の工夫

- ・新聞紙を破る時の音のおもしろさを味わったり、破ってできた形から動物をイメージしたりする

見立てのおもしろさを味わうことができるよう、「新聞紙」の素材に十分触れ合うことができるようにする。

- ・「片付け」からも遊びが発展できるよう、ビニール袋やスーパーの袋等を用意しておく。

④留意事項

- ・新聞紙を丸めて「剣」に見立て、人を叩くような遊びにならないように見届ける。
- ・新聞紙の上を走り回って転倒しないように配慮する。

牛乳パック あそび

①ねらい

- ・牛乳パックの形から、車や電車を見立てて、道路や線路を広げながら町づくりをして楽しむ。

②活動例

- ・乗り物作り
- ・建物作り
- ・道路作り（牛乳パックを開いて使う）

③環境構成の工夫

- ・開いた牛乳パックをたくさんつなげて、大きな町を作ることができるように、遊びの継続や広がりに対応できる場所を確保する。
- ・友達とかかわりながら遊びが発展するように、みんなで大きな町を作る場面を設定し、アイデアを出し合う場を意図的に位置付ける。

④留意事項

- ・「赤信号だから通れないよ」「車は左側を走るよ」など、遊びながら交通安全にかかわる指導ができるチャンスである。

場や空間を利用して遊ぼう

おおかみごっこ あそび

①ねらい

- ・いろいろな動物の表現を楽しむ。

②活動例

- ・うさぎ、りす、あひる、ひよこなどの身近な動物の様子を表現する。
- ・おおかみ役を作って、鬼ごっこをする。

③環境構成の工夫

- ・「おおかみが やってきた」を歌ったり、ピアノで効果音を入れたり、ダンボールで隠れ家を作ったり、お面を付けたりすると、より楽しい遊びになる。

④留意事項

- ・先生がおおかみ役をやったり、じゃんけんでおおかみ役を決めたりするなど、おおかみ役が固定しないようにする。

グー・チョキ・パー 鬼ごっこあそび

①ねらい

- ・思いっきり体を動かし、追いかける楽しさ、逃げるスリルの楽しさを体で感じ取る。
- ・仲間を助け出す楽しさを感じ、友だちとかかわりながら鬼ごっこを楽しむ。

②活動例

- ・じゃんけんのルールを利用し、グー役、チョキ役、パー役に分かれて、追いかけたり逃げたりする。

③環境構成の工夫

- ・帽子のかぶり方で、相手に自分が何役か分かるようにする。

④留意事項

- ・幼児がルールの大切さを知り、守っていこうという意識を生み出すために、遊びながらルールを理解し、進めていくことができるようにする。

サーキット 運動あそび

①ねらい

- ・自分なりのめあてをもって、ひとつひとつの遊びに取り組み、体を動かしながら達成感を味わって遊ぶ。

②活動例

- ・自分のめあて（例：前回りを3回やるよ！など）に向けて運動を楽しむ。
- ・友達と一緒にサーキットを回りながら運動を楽しむ。

③環境構成の工夫

- ・園庭の形、砂場や固定遊具の配置から、「走る」「跳ぶ」「回る」「投げる」「蹴る」などの運動

が楽しめるコースを設定する。

④留意事項

- ・砂場遊び、ごっこ遊びなど、他の遊びをしている幼児とぶつからないようにコースを設定する。

5 保健・安全・給食指導

健康は生活の基礎であり、あらゆる教育活動のもとです。

幼稚園教育要領では、幼稚園教育のねらいや内容を幼児の発達の側面からとらえた5つの領域の一つに、心身の健康に関する領域「健康」を位置付け、3つのねらいと10の内容を示しており、自ら健康で安全な生活を創り出す力を養うことをねらいとしています。

1 健康指導の場

健康面から、幼児を理解する方法として、次のようなことが考えられます。

<観察による理解>

- ・見守る
- ・共に遊ぶ
- ・会話する

<客観的資料による理解>

- ・健康診断票
- ・歯の検査票
- ・保健に関する調査票
- ・出席簿
- ・幼稚園幼児指導要録、認定こども園こども要録
- ・体力、運動能力テスト
- ・家庭調査票
- ・家庭連絡帳

※定期的に行う身体検査の結果は、終了後速やかに記入し、処理する。

※アレルギー体質、疾病、障がいのある子等の指導については、保護者、医師、担任の三者で連絡を取り合う。

※幼児一人一人の専門医やかかりつけの医師、保険証番号を事前に把握する。

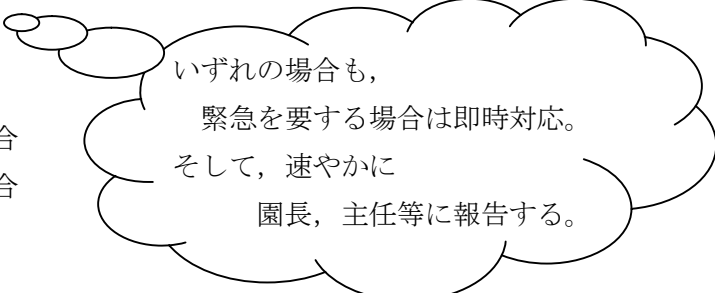
(1) 朝の健康しらべ

朝の健康観察や出欠席の調査では、学級や個人の一日のスタートとして一人一人の健康状態を把握し(顔色、表情、態度等)、家庭での生活の様子も考えながら指導に生かします。

(2) 保育中の健康状態の把握

- ・手足の爪を切らせ、運動に適した服装、髪型をさせる。
- ・幼児の健康状態に少しでも異常を見つけた時は、状態に応じ下記のいずれかを速やかに判断して適切な処置をとる。

- *担任で処置できる場合
- *養護教諭と相談した方がよい場合
- *園長や主任に相談した方がよい場合
- *家庭へ帰して休ませた方がよい場合
- *専門医に見せた方がよい場合



いずれの場合も、
緊急を要する場合は即時対応。
そして、速やかに
園長、主任等に報告する。

(3) 衛生習慣の指導

園で子どもと共に生活しながら、衛生習慣の指導をします。(手洗い、うがい、衣服の着脱、歯磨き、排泄、トイレの使い方等)

(4) 環境づくり

環境衛生基準にのっとった環境を整え、子どもが健康に過ごせるようにしたり、教師と子どもでそのような環境づくりをしたりします。(照明、換気、清潔、騒音、飲料水の異常等)

2 安全指導の場

災害や事故が発生しないように、安全には十分に気を付けて指導に当たります。

災害や事故が発生した場合は、教師は冷静で的確な判断のもと、幼児の安全第一の立場で行動することが重要です。

(1) 登降園の安全

- ① 一人一人の通園道路や通園方法をつかむ。
- ② 入園当初、又はそれ以前（一日入園等で説明、グループづくり、送迎当番決め等）に幼児と保護者に登降園指導をする。
- ③ 交通事情や道路事情などをあらかじめつかんでおく。途中で変更があった場合も、早く知ることができる体制にしておく。
- ④ 幼児に対しては、話や園内での遊びを通して、交通規則等を知らせ、正しい道路の歩き方ができるよう繰り返し指導する。

保護者も教師も、常に心がけること

- ・ 幼児を情緒不安定の状態では送り出さない。
- ・ 通園途中での危険な行動については、教師と家庭と連絡し合って指導する。

- ⑤ 長期休業の前には、交通安全指導の徹底を図る。

警察の指導も受けながら、横断の仕方や、特に自転車の危険について理解させる。

保護者に対して機会ある毎に指導すること

- ・ 交通規則を、大人自身がしっかり守る。……幼児は大人の行動を無言のうちに学ぶ。
- ・ 幼児を危険から守る。……大人同士の立ち話は危険、途中の待ち方に注意する。
- ・ 幼児を守るだけでなく、自立できるように、実際の場でくり返し簡潔に教える。
- ・ 季節・天候等の条件による安全について、その時と場に応じて教える。

(2) 保育中に事故・災害が発生したときの対応

- ・ 発見者（担任等）は、管理職・養護教諭へ報告をする。
- ・ 管理職等から保健室、病院へ連絡する。
- ・ 担任等から家庭への連絡を行う。

（けがの程度や発生の経緯等を的確に説明し、不安を与えないように配慮する。）

【事後処理】

- ① 教育委員会及び日本スポーツ振興センターへの事故報告書の提出(所定の用紙に記入)

けがの名称・程度・年齢・組・性別・氏名・発生日時・発生の場所・原因・誘因・状況・管理内外の別・園のとした処置

- ② 家庭への連絡
③ けがをした幼児への誠意ある対応(見舞等)
④ 事故発生の経緯の確認, その後の指導の検討
⑤ 学校給食についての手続き
⑥ 日本スポーツ振興センターへの災害報告と支払請求

緊急連絡

・ 突然の事故発生の場合, 園長の指示のもとに全家庭へ連絡網で速やかに連絡する。
・ 連絡が末端まで届いたかを確認する。(最後の受信者が発信者に連絡)

緊急時連絡先記入欄

※ 病院① () 病院② ()
※ 警察署 () 消防署 ()

(3) 遠足や園外における保育活動

- ① 年間の指導計画に位置付ける。
② 事前事後の指導を指導計画に明確に位置付ける。
③ 目的地を十分調査し, どこでどのように活動したら, もっとも安全で指導効果が高いかを調べる。
④ 実施計画は園長の承認を受け, 実施後, 速やかに結果を報告する。

※実施に当たっては

- 出発前に人員の確認と健康観察
○非常の場合の連絡経路, 緊急体制確認
・ 参加者名簿と家庭連絡票持参 (一部は園へ)
・ 最寄りの病院との連絡方法を確認
・ 他の幼児の安全管理指導に留意
○現地における安全管理, 指導体制を十分にし, 常に幼児を掌握
○各学級の担任と, その他の引率教師との連携, 役割分担の明確化
○帰園後, 幼児の異常の有無の確認

万一事故が発生した場合
責任者は「いつ, どこで, だれが, 何を, どうした」を園へ報告し, 事故者の救護に当たり, 迅速に処置する。

※実施後, 評価, 反省を行い, 次回以降の計画や実施に役立てる。

- ⑤ 気象に関する情報を十分調べる。

(4) 命を守る訓練(避難訓練)

平常の保育の中で, 教師の所へ早く集まることや並び方を習慣付けるようにします。

また, 非常事態が発生した場合, 速やかに行動できることを目的として, どの園でも月に1回の命を守る訓練(避難訓練)を行うことが計画されています。

命を守る訓練（避難訓練）は、火災、地震、大雨、不審者などを想定して行います。職員室には自警防災職員組織表等が掲示してあるのでよく見ておく必要があります。

- ① 実施に当たっては、自分の分担をきちんと把握しておく。
- ② 事故の想定により、避難場所を2～3カ所ぐらい決めておく（場所の安全性を考慮）。
- ③ 担任以外の教職員は、園舎内を見回り、残っている幼児がいないか確かめる。
- ④ 合図には、ベル、笛、教師の言葉や身ぶり、放送などを使う。

避難命令発令後、担任の指示をしっかりと聞き、その指示通り行動する態度を育てます。また、教師が人員掌握を正しくするため、朝の会などで出欠席を明確にし、出席簿は教室の定位置に常備することが大切です。

(5) プール遊び

プール遊びは、幼児にとって楽しく興味深い遊びの一つですが、時には生命の危険や健康障害となる場合があります。

- ・医師による事前健康診断を実施し、幼児の健康状態を十分に把握しておく。
- ・プール開き初日から使用規定の徹底を図る。プール遊び中は、ふざけないように注意する。
- ・幼児の頃から水をこわがらない習慣を付けておくようにする。

3 給食指導の場

学校給食は、食事を通して心身の健全な発達と望ましい食習慣を養うなど、重要な役割をもっています。教師は、幼児と食事を共にし、心のふれあいにも心がけることが大切です。

(1) 食事について望ましい習慣を養います。

(2) 給食の運営と食事作法を身に付けます。

- ① 衛生に留意する。(0-157等の食中毒対策にも十分配慮する)
 - ・手洗いを励行する。
 - ・ナフキン、当番のマスク、エプロン、帽子の着用、配膳の仕方、食器の持ち方、食器の置き場所に注意する。
- ② 楽しい雰囲気づくりをする。
 - ・グループごとの食卓づくり、係の分担協力、園内放送の利用等をする。
- ③ 食事作法を身に付ける。
 - ・感謝の気持ちをこめて挨拶する。
 - ・食べ方、飲み方、食器の持ち方を正しくする。
- ④ やけど等の事故防止に努める。

(3) 偏食をなくすようにします。

偏食は人間形成の面からも、栄養バランスの面からも、好ましいことではないですが、無理のないように指導することが大切です。

- ① 学校生活指導管理表、嗜好調査、給食時の観察で実態をとらえる。
- ② 放送や紙芝居など楽しい雰囲気の中で、何でも食べることができるように工夫する。
- ③ 家庭との連携を密にして幼児一人一人の健康状態や発達の段階等を考え、適切な量の配膳に気を配るなど、長い目で指導する。

(4) 食物アレルギー対応を確実に行います。

- ① 事前に学校生活管理指導票等を用いて、医療機関との連携を踏まえて、家庭での対応、除去する食品等を把握する。
- ② 職員室の見やすい場所に毎月の対応表等を掲示するなど、毎日の食物アレルギー対応の内容が確認できるようにする。
- ③ 給食時以外の活動でも食物アレルギー症状発症の原因となる食物を摂取する場合は、その扱い方及び使用状況を見届ける。

6 家庭や地域との連携

幼児は、保護者や教師など知っている大人から見守られているという安心感に支えられて活動意欲を高め、活動範囲を広げていくものです。

幼児期の生活は、特に保護者の感情や生活態度に影響されることが多く、保護者が幼稚園や教師に信頼感をもっていれば、幼児も安心して過ごすことができるようになります。そのために、互いに心を開き合い、家庭と密接な連絡を取り合いながら保育を進めることが大切です。

また、幼児の生活は、家庭を基盤として地域社会を通じて次第に広がりをもつものであることに留意し、家庭との連携を十分に図りながら、幼稚園における生活が家庭や地域社会と連続性を保ちつつ展開されるようにすることが大切です。

その際、地域の自然、人々、文化や伝統に触れる行事や公共施設等を積極的に活用し、幼児が豊かな生活体験を得られるように工夫することが大切です。

このような園外の活動は、幼児の発達を十分に考慮した計画の下、保護者の参加や安全への配慮を十分に考えて実施することが必要です。

1 家庭や教師間での共通理解

	内 容	方 法
教 師	〈幼児についての理解〉 ア 健康の状態，生育歴，生活習慣(食事・排便・着脱等)の実態 イ 知的面，情緒面，社会性，言葉等の諸能力の発達の状態 ウ 遊びへの興味・関心の実態	入園当初(入園前) ・園児調査票 ・アンケート ・事前相談等による懇談
	…………… 〈家庭状況の把握〉 ア 幼児の育ってきた環境，家庭の様子 イ 保護者の教育観，望んでいる幼児像，育て方	家庭訪問 ・懇談内容のお知らせ(訪問前) ・調査票等
家 庭	〈幼稚園・担任の教育方針の理解〉 ア 幼稚園の教育目標 イ 担任の保育方針 ウ 幼稚園の生活 工 幼稚園の行事とその目的	入園当初 ・保護者会 ※園長の話・主任の話 ※学級での担任による話

2 連携の内容について

連携については、直接話し合う、文書などによって間接的に連絡し合うなどの方法があります。誰が、いつ、どのような内容について、どのような方法で連絡するのかを園全体として年間を見通して、全体的な計画を立てることが必要です。次はその一例です。

方法	種 類	内 容	時期・回数	対 象
文書	園だより(園長・主任)	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育に対する理解と協力について 行事に対する理解と協力 保育への心構え 	学年・学期・月初め・随時	園全体
	保健だより(担任・係・主任)	<ul style="list-style-type: none"> 保健安全、衛生、諸検査について特に注意したいこと 	毎学期、随時	園全体
	学級だより(担任) 連絡帳(担任)	<ul style="list-style-type: none"> 学級指導の方針や幼児の様子や諸連絡 個人的な連絡、問い合わせ、幼稚園での様子、依頼等 	毎月末 随時	学 級 個 人
電話	個別連絡(担任)	<ul style="list-style-type: none"> 個人的な連絡、病気、けが等の連絡、問い合わせ等 	随時	個 人
	緊急連絡(担任・係・主任)	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事項、休み中の連絡、依頼等 	随時	全 体 学 級
参観	保育参観、家族参観	<ul style="list-style-type: none"> 家族の人たちに、幼稚園での指導の実際、幼児の様子を理解してもらう。 保護者・教師・幼児のふれ合いを大切にす。 	年に数回	学 級 学 年 全 体
懇談	学級懇談(担任) 学年懇談(学年主任・担任)	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との人間関係を密にするとともに、幼児の家庭での様子、園での様子を交流し合い、今後の指導の方針を立てる。また、幼稚園の教育の方針についての理解を深める。 	年に数回	個 人 または 学 年
	個人懇談(担任)	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と担任が一对一で幼児の生活の様子を話し合い、幼児理解を深め、指導の方向を確かめていく。 	年1回、または、送迎時の出会いなど随時	個 人
	家庭教育学級(園長・主任)	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の発達特性、家庭での保育の心構え、明るい家庭づくりなどを理解する。 	年数回	園全体(希望者)
	家庭訪問(担任)	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での状況を理解する。 通園路、近所の様子を知る。 長期欠席、病気等の状態を知る。 	年1回、または、必要に応じて	

上記のような計画は、各幼稚園や内容、時期、対象などによって違いがあるので、計画の実施に当たっては、職員会などで話し合い、目的や連絡の視点を明確にして、綿密な計画を立てることが必要です。

3 連携の具体

(1) 文書（諸通信）

文書による連絡や説明は、何回でも読み直すことができ、理解を深める確実な方法です。しかし、直接話し合うことと比べると一方的であり、ともすると誤解を招くこともあります。

そこで、誤字・脱字・内容の書き違い、書き落としがないか十分注意し、読む人の立場に立って書くことが必要です。

また、むやみに教育用語を使わず、分かりやすく、簡潔に書き、幼児の言葉やカット等を入れて親しみやすくすることが大切です。

連絡帳の質問などは、場合によっては電話で返事をするなど、迅速かつ的確に答えることが大切です。そのことが保護者の信頼を得ることにもなります。

学級だよりは、担任教師の意図や願いが、幼児の活動の様子などから生き生きと伝わってくるようなものにすることが大切です。

一般的に、内容としては次のようなことを書きます。

- | | |
|--------------------|------------------------|
| ・現在の学級指導の考え方、内容、方法 | ・諸行事の案内や実施の様子 |
| ・幼児の様子、遊びの様子 | ・学級としての保護者への依頼やお礼 |
| ・困っていること、うれしいこと | ・今、学級で読んでいる本、歌っている歌の歌詞 |
| ・学級ニュース | ・入転園した幼児の様子 |
| ・諸調査や検診などの結果の報告 | ・幼児の作品の紹介 |
| ・幼児の保護者への願い | ・保護者からの意見や感想 |

<作成上の留意点>

- ・園長・主任に必ず指導を受けてから発行する。
- ・行事その他の事項の目的や理由を簡単に述べる。
- ・印刷は美しいものに仕上げる。
- ・発行月日、発行番号を入れる。

<配付上の留意点>

- ・配付の時期を適切にする。早目に出す努力をする。
- ・確実に配付されたか注意する。連絡袋を活用する。

(2) 電話

電話による連絡には、次のようなことに気を付けることが大切です。

- ・自分が電話に出た時は、「〇〇幼稚園の〇〇です。」と名乗る。
- ・保護者からの連絡は、緊急の場合を除いて電話する時間(保育開始前または、保育終了後)を依頼しておく。
- ・緊急連絡する場合は、内容・時間・場所・方法など要点をメモし、次の家庭へも伝言するよう頼む。最後の家庭は、電話が来たことを幼稚園に連絡してもらうようにしておくことと確実である。
- ・保護者からの連絡については、すぐメモしておき、必要なことは関係職員に連絡する。(内容によっては、主任・園長に報告する。)
- ・丁寧な言葉遣いで穏やかに要領よく対応する。
- ・園内の先生は身内であるので、言葉遣いに気を付ける。(例「園長は出張しております。」)

(3) 保育参観

保育参観は、保護者が幼児の保育の様子を実際に見ることによって、教育の方針、担任の願い、幼児の集団の中での姿を知るとともに、幼児教育への理解を深めるためのものです。実施に当たっては、次の事に留意することが大切です。

- ・日程、参観する視点、気を付ける点をあらかじめ連絡しておく。
- ・全体の幼児の様子、園での教育の内容や方法について見るができるようにする。
- ・参観後、保護者の質問・感想、希望を聞き、交流できるとよい。

(4) 懇談会

学級、または学年の保護者、教師と一緒に話し合い、客観的に自分の子どものよいところ、直したいところ、諸能力、性格などを把握したり、保護者同士が子育て等について交流したりする場です。始めは担任が会を進めていきますが、だんだん保護者が中心になり教師はオブザーバーとなれるようにすることが大切です。

- ・懇談会の通知は、早くする。
- ・開始時刻と終了時刻を守る。
- ・楽しい雰囲気の中で、みんなが気軽に話せるようにしたい。歌など歌うと効果的である。
- ・園でのすばらしい様子を紹介できるよう、観察、メモ、写真、VTRなどを準備し、それをもとに話をする。

(5) 個人懇談、家庭訪問

担任が直接保護者に会い、一対一で話し合い、心と心が触れ合える場です。幼児の幼稚園・家庭での姿を出し合い、幼児のよさを認め、さらに伸ばしていくことができるように、今後の指導の方針を立てるようにします。15分程度の時間しか取れないのが普通なので、話し合いたいことの要点をまとめておくことが必要です。また、教師が一方向的に話すのではなく、保護者の意見も十分に聞き相談にのることが信頼を得ることになります。

園への要望は、その場で返答しないで、園長の指示を仰いだり、職員会で話し合ったりしてから連絡します。

4 家庭や地域社会の人々（地域ボランティア）の保育への参画における配慮事項

地域ボランティアを生かした保育では、主として次の点について配慮することが大切です。

- (1) 幼稚園教育要領を踏まえ、保育のねらいや趣旨を地域ボランティアの方に伝えるとともに、地域ボランティアの方の保育に参加する目的や願いを踏まえ、地域ボランティアの方との十分な打合わせをする。そして、当日の保育の在り方（地域ボランティアの参加の仕方等）について具体化する。
- (2) 地域ボランティアの方への礼儀やマナーについても十分に配慮する。事前指導（地域ボランティアの方への対応の仕方等）や事後指導（感謝の気持ちの表現の仕方等）の充実を図る。
- (3) 受け身的なものにせず、質問やかかわりなどができる場を工夫し、幼児のみならず地域ボランティアの方にも「参加してよかった。」「園児たちとかかわることができてよかった。」「今後も是非続けたい。」と実感してもらえるようにする。
- (4) 幼児の実態や活動の特性及び施設等の状況を踏まえ、安全等には十分に配慮する。